



B 18495



1

やうとなり中は然のうちゃうるでしょうねらりつるているが、およりのなはれてるくいでしんの女体体表をなり、水保のではしてすりくの 一人れて出しる古龍をふるかしるひといりかれているし者水のないっていて ●中宮亮重家科与考合了二番題郭公瓦防引雷隆本いるるいかり 大鳥級毛衛是我其務而奇思之间保止人沒復上鳴去了了 官子也首人完之樹樣不塞草生子漸生長之以近臨天見之自為腹 中了なれてれてもちょし、国門江該初之了要其な蓝樓島者 うるとうていなりというじといくかられずれいるみ皆ての かきょろもろいくして むられものらいきるったりんなんだろ あーしていてからくしいのようつうのやしょうしくいてきって かいりとりからうなけるまではまでのけってんとある くすかしてともいかはひとれよってかられたうから おるのから何ととうてといっかとうなからうまするよれられ ず信やいいしょりちといるくのうのだろうあもりいろろう ううもうしいうとかいれるるかくとういくないかれてまれ すのちかれ水しいしくいけるのととうくろれるないない いいというとはるというというというとくのとこれというとうというとう 一ちてしかとなかてかときいってとんろうくこれとられてい

The state of the s

とうているのいりんりかくうているとのものです。松を明を名かる 好のチャまちゅらてなららかととのりとからしばくありと

りつうりんとうやの中勢集をかしるのうきょかるとくのとこそくならいる

井つのからいとりとらかからりましておきる人気でゆる

かのイナシないあることのけるとこのまでのけるしちできる なりからいくなからいけんなり そのてらう それもられるいない

一人れて正院るな能にさいていいというろれなるこ者からないしていて まかしていかさくもいのようつのやしょうしもいろう 大鳥羽毛衛具紙其親那奇思之间保止人沒復下嗎去了了 第五也首人完之樹葉不安草生子漸生長之内近臨べ見之自為腹 かくなれてなくとからくりまなはいかるるなりないははあ者 やしなっしないなかてかときいってというろういろうない るるととうているしくいうじとしてかられまれるみなでの いとうろそろいろしてかられるのかとううありてるんちょ くるかしていてというはひょいれーのしてからなからうかと

○中宮亮重家れら多合了三番題郭公凡防引富隆本いるというり

井るのからいとろてういちかとくなかろうあるよれあて が信にいいし、見ららいむくのりのにあらうかしからいるとのう ううもうしついるとかいれるころくともいくなるのれるまか すのちれれよいしくいけきのひまとりろれるなってとのこ

そろうとはなりまれるるとらんしまますい うちんなりとやうしてとめっしょい方意才な球を公島 父もというちかんのてもなるよりきいうくいちゃいることが すてきゃしゅつひょうなのるだれるいといつるいいとう こいるしりをくる七気なるないいいてなるわる人のころとあせ するいてあったのようと親のわやとかいかしろけなてやくるの かってきなとうことれいいりとういいにくいろうこともしまり ますらなれいつゆく かりひからかいま まのかり くかとるしくるっと すなのはりはなのいちのあるするないであるようのからしてもいく してよるないまするとないがん後世後、菩花村院の借る

くれかしはし さかしこなるしてまかってきなどになったれ

一并肢が難は好る中院後八名家のしていは道名場了父祖のある 郭るしてい考しまま展天仁之年四月师时のある冷郭公後れ でをある あるちゅういるくしょういつんとうからっている 長歌云門見生即乃中不會公息於所生而已父都似而者不鳴品 空事記むしとなすれるなまするかっこうあといくな か似あ者本味るべてはある万名のひる中してうしてくろう父も 羽んかとうけるからいろのといろとうとまなくてかっかりので ころうかっというちんととう てせるゆりりてるとかかかかてくと思いるといとのりまれるける

てきるいろうて次十五なかるしまりってでるのあいうとのく

高世大器無雙者也打飲的成者欲詠必可收果者也で、井蛙か 飲不好中克佐係堪能已被在異殿而献中殿和写者也秀徒在 不可能免難人数一个家长光便考在七丁版字等也家長和 人敢如是此中於為易納及者雖為重於每下未除し中风水 二十二人人上皇初者五十首和奇事己先例软具上何事侵於你 風を道的は親主家人士者和於足家かむ後多名院初与作者 くかかとうかいちゅうてすっかり十十子ないとはれりとこまれ いとあとうろうかれるましくけんかくとうちょうつけんとろうち そろびを古ちよくつみそのよりなっともわるは数別とう すろうかいすこと歌のこのつろうちんかいといちは

一八名中的る真のかしるろうとりいまな子ではり相やこ 見方後松き雑四くるのかりまりってあいものときいう うつとのわめのすり日えかと連接でせりくろうらのでき 列本るなるででは名入造でやしてなるの言を私政法蔵 信息を作りないいりしんとうろうりなくるないや かいせてるしらのからるかららるころのちまいちゃく とうしてき 人しるりらうひろやないのとろしなやいのち うしてものいめてきあるい人とろしまついろう されたるななは野地のるありなるかとらいまそ

で女店れ記というりのせらけゆかくしろりられていたとうとうさか こす戦集十八部皆でかとうしいわりというでもるほしむもろうかる とそいかなりうられてはなめいてさいるちゃろありれいなりか りれいといろしまからるとういあるんりう かしいですられるもかしらしころしなりちゃうない いるしないのなれよから安世は時はししていれても我 あるれいかっいあんとかどきていてりからりまいろううなくしと りれり 夏秀蜻蛉日記さかくろうくてどってられるのうと よっくいのはのうううといいのをはましれ、隆隆はくん ていてもうまいとれらしくろうてる思快をあれるりいろうて るいなりみかりかしころろのししまんびゅうといかうでもせぬ 山島もしいらしなりまするとうまれたきるないあめるして そのなくせるかりちずなるといゆしつのでかいかっと かっていからくいろぬかりのちくのいめつちゃっちゃちゃ 了ん人まっとしかかかりたうりといろうりつとうからのは 女はをゆうかをりるというべくかりけてなれるとうくら 多後於き了川--今年報上之後後於院內也成了 からまとうりのとからしんれしためっとうしていた しるめんでとりかろうしてものりとうとんでいなかてるこ

神しゆうしょうんくるといからりらられるとう

きに ないあるれたあらうちのかくろのねしかかるいろうちょう いろうつさいくいとうとうとうちょうな一個人は変な かっるしあるしろうのろいかましてとしてしていなどもない ~りれいわめつらとかくうまめいてとらるいものかるとりとすい いろをはいっちゃうれなりってもいかれるいろいとうースとうとうと ていしいてるめりてますくいれ後を見るするいめつらの水の くてれんろいらくこくとく ぎしゃつりかりしていと

一致林溪椒自應作日晓月房為拍司胞俗名為寺學不完八人自老 作者部類及為身侍後是時月人物言為永老子之子大都記傳送

よびころべんころといろし、他川政白で、常散雅活、現川 水道いかしなれてなかしてもちくへのれのわめからりとしみめど ニリオとりはえくらくりっれかううくちょきれつむしのか 中門言入遊室家以真体中疑此付多大的那二年九月十六日个者志惜一年 ロカりんすとうあらしとうし そくといろれるりことしいすべて まためりのをはりてくりも女者ろうとなる中でれるものので ろうはらうとうとく わかてまっとしゃしはるあるという は水をなるとうようととなるいもうかとうなっていけい ~了今日個百百鱼至言文比·卷北の因数の河南台の表言祖父京花 しょうのちらるといやすし かりのうとかくあくかのやして かりと

すらしくしてれんとようとくしまり、競りは作りまし いくから言うに京月りもひむくくといい そろれての者がきるという一部はよりてもちの名をり 銭月店と京作店とまて成人京月店ときて足下る オンなててをよのとよめらい人へ成とまるとあるだら教以道世人也風致有百首、見る 美人物治しわりきし 定家写力也禁中教會落身不喝憤激後此遍世飲託在皇 尚日件集云 等德三年十月城陽梭坟墓 陽日晚日乃 ろうなりりとおき、入るとうる・鹿苑院風瑞和 かるよのあちっているのかっかりはそいいとうてかる きくいはくれるの後子ろいろうかいこういとをおれ 173.5

一つまて草をあるくのくろれとしかあつらわらいけらかいなる たるまつているがあるものしまるときりもろてのほろい そろれとするとくずからずいなくのねずいいのかすときろさいもろうの そうなまいてまてきないる ぬるいらなし くらりちょくれて ゆくろうちろうんうちゅうまかりまかりまってわっ 情力納言でぬる記るだろうよずていりい人ようかということい そらいまのとういるとすっといていてれまといろしょ くうけるめのきんてのいりかしょうめれてもさくのちのあるとく やとからると又するとうかろうろうめのでませるてついるかい - ことのやろとというとびしてののいずゆしてなる

一同者で異けいまかくろけいまいなし一時海しちまいかいけ 、その何けいはれたくのあとうころくともない うのかろうかと日集ける作とると後れたに対象できや 新活百个来なたのけとようなななりやくかどりなりれのかる 大政人をせてとれているけれるなるかまいりととのこととういうし のは竹をのくれているとうととういうのけると後服を改国の のたいりてくうけらからうとろうとてうころ新格道集王松年内書送る えるしいの同のままでけるたいらうにきあい西からのいにろういれれ にお放いることとく行れるいという、見考ないなか性はなな

一同言ろりゅのとりかりは感激のはいそれにしまかりともられる ・著川集ア名にぬいのりときろうかるまなまれきるうら のおようらくをしたくえずりていりつうせのあるる そるれるせのころいすいるの中のゆのころらるるまれば とていかとの世のろうなと参してとりにはいりくせのうろうなる 中にの後ていらいくろうというませのようとかろうちょうる を井のりとうりしゅうちらしいってこしかしとしいい時内は ぬんけんしてのうなをみるいあらりにすいてもべるかのい こうときそう自考良春な作小次のといるゆそれかのめしあ とよりすと人の「わり」の、建校八院のお子変後名和院の

一井柱かえ数かろくとにつるべきととすうろうへとととを寛みらり ゆっこいぞっているるともかとろうとう 一によっくとのぬれてらのよろっときのと言ういいりろうちをあれ 新物母集報可とる香隆るははいろんときかく役的もろ りけることいろれるころをあるるのに日記 義政治行 こ有しなしのなりじるけれるともしりたべきいめるとなってる それらまりりからくろいんとうく このもいいあしといううちゃ 人はうた同日記ま香隆らしるろうてるれたるはれる 極川院後の点待いかしてまるりかりまといれるやはいかりたっ かとまうきつくこのうといくけるろのあっていっていかかりっとって ちつい十てかりてすれれてるなってしまといるれてれてる それりりというしょくとゆうちまいりかを食るでいるかるまち いうしれるやりをちのもしとしまるかん ないいかりとうてきるつうちからけれるよう後後のとときの しょうううかとうちいるととれいうちょういくうるか をいうりのともひしめくとうしにけるくしいらうならるらもらも 日記るうりつかまているとにいるいねこうにかなわしけらら まると 自考教後典情を記るにまていまくとれてきて れてからなどの引きているとうないからてすくもう しこれとろして、ちょうしょりとせてすかいろ とうなあさま

この名非多ち个身 臭流等 要言文此本文為林本與雖信用帝政法加 而難注加於一新時代不同分合六十七十十五大班言名他人了人人 というとはいれてあるりうううれる名的大きを変かり 独步修若無人恐誇時華之皈伏若及古賢之情慢於如此人者推 かいかかいかしいとれたわきしてっするからなるないき あつくとのできはいりくはむまうりとなるりてきてあいいると 大暑以後人之華取疑知条大納言之取為放依諸道之堪能於和歌 りとてりりかくとうけけの東生のるともろうとしんできる しとよいうの信後れらかの人らくしは成なせられいたのりのける てす 毎双の方人ですて、二百家はまごううをはない人

一角なる母をならいちは人りをしてするしてりくかて 至金華禁右自詞花集至續古个集乃了 かしてをあるまするはいいいるうちあっかれるかった たるれるはれてめゆううあったのうちゅつもと思いいる 差象了打10入的之人之一名的後次頭的我吃在六十 なはろいれるとけいりれいりもからなとるめんてるるた 中子称一院也多以後提成院行製了中 すいくないとからるともるとうれなる人はのかられたあん うううり 風なば好な機者あたい者い方自高京具

ろうめかーララス変素をといりしりにまてやてるで

一日二日の火きとだっているかられていまりのけってきるます 初かいりいけりなるとはなるかできてとてりのようちて の後、後ろいりのそうかけりせるへし個馬のそもなる感 属通り推方の例のれていたちなりなるないをあること 門はつ記からて日の月と到りのタ月をといるしてすりとこ るとろだけつろいらかかくえりやるはからいの月れてり 打考事一下海町一路陽家王言教等の没写了語報文 うしかそういする秋るとあらうちかとうちかからままない 一中さくえをはやの者明めるク州をりのろうの日とは 又七日の夕月をご 自考者的写言的信をいきという日い

一金を乗離上を年久しくであるりらもはせかくてると りつかとの月と父母をととううりいいできる記に做るるか 一多の見返りかるるるるる月のえてか一方是と思け都らりを 日の脚はののなりとうしてけるえと患りるでするから かいけばえいろすえ大きいとのないなりかいはのえどりえのを無けてもい にきられてりるうあっとついろいけいがるこのはいちょ 好はてくめーーニロの月けかてりゆくみはなりなるをお るも月からていか三りりとよめるほできるが、井の海流の いかいかけろうりまなかれいかっちいあたけで、三つけいる パイナーへもあるまとくして、まな雑誌を羽の頃の夕日夜

むすりとう と験るようひろうればいると後はどうありりずころうい して先伸からとてから次は終へいてかって験らくのるまして らくとたうないましてると前でかるのするよれへらいかんとうこと 五時だをはいったとうころがしると見るをたのを使く きようちある河の路とくとろうくうかちょう自然者原果 もなるいろなして世となしっまからしのするしくから おきましけるつきてもれたなれてからりるをいろう きるとなりないてたまっとうかりかめとうつて くててつからきつうしまとうくうかれてもしまるとってつらり

一同意と記動の友人をあて出仕の個件とううくきゃうして けらっとあるけずの大阪も大くしとさいようしまくてうじょうし りんかんのいろうりしますかいもろくとなんけるくしまるもでんなか うていどうかものともらいてひてしてどうてきらのうてはなり とうれいとゆきりもすりていもゆきへのすけいくちょくとうとめらていちっ 女はのころうけってうしからからいろうちょのようといくしょく 気とういくさし見るめのとのうしまむしまかりるからいろの いくのどいていってあっとめってとなる くいかろかとりてとのはでいくなりそろろんいかられてらるのめい かりとうちょうかいろうかいしろいむらのかりょうううえく

た手を上げて今間及東諸国為有軍後罗起弱全不堪戦で、女子著闻生之多格佛選部之席十分間及東諸国為有軍後罗起弱全不堪戦で、女子著闻作者者和李教器里百分十一時候應提為共而悉皆匹弱亦不習武慈者同事二十七必曆二年初日 高さずるなけり、配動のオフラとくてはあいらいである底以下のかけ! 連ばるうゆいしまのえるかっとそいいろうた者をのいてんのろんだ 百世、うりりはでは教の後 思るの内をいるをくいてよりえるないの 不理でするがありかのらうななを残ったりりは一種食のかたなられ するさてを語う断ってわられてあるる下学を言辞りを庇弱 **気方為日本化ガル和銅四年記日凡衛士者非常ご設不震ご備浴り** 年といってかりますないとかったからこと

一方を生かいとものてきていばいむとかのおけんとうしていまう、気き いのかととう人はれいたの一はなかとくしてぬれいをのろうち こいてすいかけるかくのからしているめてるかっていろけるかん うしてるまれてれてかりつるしまなるというときというして けらってるとしているかられてからのからういるのう るくさいとうないないるつうはかんのるとろしてきんや くめくいるとくにとしてといいうりまれからくいとりかり 頭おようのるとかへしてきなしいもらうへいたろうるとうしてきて ぬれいないともとうかれるといくらしとうろして変なは意 かまいるのきていくのうろうなるこうゆかいくてあばるりますする

少足から小町からせめてのかもとなどろんうしいよるにあてい なのかなわてというとうなとうからからからいろろれ てかくきるのうとうれいらけ」を後れの込まなけっちょうと をおかるなくしてきといるのうろうさいとりっちょれ 日かくてるくるとうしてるなんできに領はの にせまりてきくかといろくろうとっていころしてろうちなる ううちんなるははいちゅう名とまるもれるべいなわ りくととなるとできていてまさればるううないれらいるん なはれとすむというかとしてあるうはんなってきか 内のおは、なくかやくはようかとかからいまるもろはかからしろ するかりてうりょうやき人はお記附録経過に思わるはれるち 2、からしゅれるとうしくもちり関係の分合ればおきをなるない むかれてやはってくとのとなかしくかっというかのかとなりいて他言 っきっしてかりしくかいとせしていつかれる名にてくいるとよめないちの ころれのがれ頭吸をゆの利えなからからかなんがはなり き、空でする南た街後はなるよう人どろようやくしくのかけ かしましてのの気ちょならりしわとうしていてることであるかか 女はれるこれ人のくるいなかかることろしよもいろうろしと

・人な送は、元神からくういるごうて後をくかるのとれ いる松玉集をいてすべくんといのううかったるとうかくも

一人麻ら赤人夢生の没たするたちかりとりてく異えばな れけるとかりけるいとかられるかりるのとうなかっち 。ほれかって巻からかったとりくてつやてもかっきのよれることい 大武のようとうの裏三年市门でなし人伊舎の来文意等 のように神子とれずるあるかしるいりれるとうとう りっくのいろとんぞくでとろしられ本人を何う議議を無い 芸芸産のかどとうへてなのかとうらえしてきて麻がらいろういかり かろうあはよりろるよけれるかりもられていてたなど いっとするかをきを使のり返らたろう とから式がゆっちょくととないっているけらってるかを

かくうてきかられるときしてあるとはれいとれている かりのせんなるけれけなところろくいちませんろう人れてはいっ 方今相のうから数之ゆりこめ 風云貫之のゆするの こるはどれりあきてもちいくれどえてかくどうとすりま ゆうし柿本とした神垣のかきりしちろよるととすして枝をしよ さるからんかんかりそう下と主要主義大変は機能が人だ亦人幸雨は時 したくせるとすとし又後うせるとととらるはらりかっても ときろうちゅる赤人いますのですりなずわりらうしょうな僕そ て出版あるいかなどのなとしるもの文字ではすて柿本と文字 するから人た赤人愛させて君天皇の十七才八皇子母と過去り

一条政司を接受を用まればよるを行われているとれるかれ 二年八月八日赴二條殿入自西門近視泉國池亭水星或不可 日ちられていつこもなかりかいに流れるる日本な意味 とてきろうとしているとれいる。中では成れらり、見たいを裁雑は 一をなど捨けんゆうあるのまつるですこからしい 世說日陳充難為見本亦難為第打多八人 仲元といして生人の水るうかるやくわりきいろもけっともうちょう やいよいまられかいとらかりのうできる立水とゆうじり かくない人むっちりますんといくううきょうちゃん とするせろつかちかをまのからいとうからちんかからまんと

一たまていまる後を経院の四分と神をひと一とのうらならいろうなん らかいろくて二名の家というはといのあしとうらわさか 勝言さられるのける記るいけてはころいくいっけるこれいつてって かれのおというとうくなくととははあるらばのくまとうと かるとくすっていれてなるんではきいいりょうかあっても やららんかですまろいかかりてのしろくれの地であるはられてい かられのまちゆのするころにくろくろうすまねになりろく西の うきいやてたの中とうきいるるのでううしかしてるこ あのなるとなのいうとうへていくなし、水のふるこういとはろううけ うっこういろうぬかとしてとめまていてかしくうころ

からなからないないのではあるとうというないのできない。

一体皆の語る日のラナらりとかっきなろすとときなくなどなってからのの いくとぬりしいいからさくのないかけてっとうちゃときひらつん いなくしどかってまちらりる、ちりぬきられてのところのつきという 保三年三月時日成上人似るしていててきるよけ思ばらかられ ちのからのうましてるかけるりのちちで着国長ま はなってくうとらどれてくかりとうへいかろうかは記らられた くゆくいちよいいのやめくさあわるきからりあいているへ格王集官首 わないるといろうとかろて人のはてもことからん ともなだりとういいもうとなどは年年年のころしてかりく すきてろうこ 気あるかはますからなかいもしゃんらて好れた

うしぬまとれの名

在日事云添酒室文云不聖盖兼名死云不一名 厄至亦作方言註云盖暗 又會坂之隣も越何、如名林"盤唐韵之盤燒陰及罪名也之之酒室東官 いかちくのけれがれぬってくしいきえともですかれてものきの 日本をよかのうちらもらてうけのうしにあてもいちょうでん さどめて大ねなりくいけらうかってうちくうくえとのかりも 雄闘が盃之最小者せくつかわけなけはきるらし人の名はの作ける 気方真名伊势わ語る共林、盤、た續松四里を歌之赤子書が うしについうのすかしているのまでからしみられる関とえるん うるとあるといるようらんいういてものるともとと

くしけてそのてスマンとの気がうのなないのにきこれにはないなるををとれるかっていこめいとうかひのにってい いきろうしてきらけるゆいとうのそのたっかっけること ちころかようこのかかいろとうさいずしておくしゃってわるがる ていとなりくろてていのきのかったかろうかっちょう んろのかろうんのろうかあれのいたーろうひょうていみきんけ らけるなてからうましたりない せてくあすれてくてうりけよくからつあるいかのでしなてかる ~~ うるあやいわっのひとからねからとのなくしてきろけのは なくないけのせらられとみてらまち

在俗污淫和好士車官者被婆軍之中称為是教授人、不分明但或致四夕人午如事我都探字鏡太機 計覧是等 一分到法演走了上言多了醒也为又消走一人之子人

者を持ちたけるよう 勝着でも見ち飛行されるのかや文小いのい。 「白年病ご来の場合のから文小いのい。」「白年病ご下来、加松砂さ昔いころらは思いをを主義の場合のからない。 ときできないで作取谷歌をみとうこのいっこうガチハンらむしのなくよりうといる きょうするえかころみるいむもかっくうないつりょないまといけるい はうサナキモノ上ニカッルモノしカケッとヤウノモノしるがあるるをなる子 一條院のでんうかけらかしめていいかで着しるしているい アクラからつくしまないとし うしえてらいうのからなららると をは何日からりと看得の内いいかというなたちらとりちかっちつう かくていからあけられいかっていてろくは語秘受会 るいこうえまいゆいりこのそてつきるましれどで最又式やませを

きてかぬからしてままろ いかにたてありまるるのとすこめいちゃっかったのせろく

一一伊藤の内とうりとけてしていまってくりのもっとにくのくしかる らきるつきあるうかかしまっているちゃんだけはんいか ういちでらんからつまうりとかららめのもれいとたべろりとえせてきてい ななべるのをようのうわすしてんとを付きてなろくられいしらの 大わかないろうとの中国なの行後ませててとうううたっていっているとう いてもてすつとかのかってきらりなとうちゃん きてなるへろうり見を竹とめまりまくてりらのいよいうへき うりを入してかかけれたりのまにもらるはったとているとき

一つまっくとなる中のないなくようないとうちてきらいろはきん うるが近にっくけら人にてくるをだかくりてきぬ下るいろしいてとのいうしていのにするとなんないないのから 長近する 恭在菜業餘わかの花で暑し いななりけくをはたしてひさっちりいをはよっけくで車を りきいるくようてるしまりせてはなのであれいまの単文な よいろかれいのうのうりとといろ人なはずれー自然を ては一日とうにはを田幸かる大はとなの面目されるといと思いれ たりるこれこりは日まるななて何これは後見いうつろか 物はという動大個なな親の山在例候なのとうるできなる

一後在今難上るとにか中西的は你がいくいんのりしてるまるん うの一月ので月ろうり見ちらむ集上、そのういなうと

一ちた日記る十六日りかすうちかけていってのかろはわてることをするこ 十八月りかけらはしくまつのからはめてるられいましたのたろうか うるしりれると、京教雑話·建久三年二月六日下京世談にたい ではしかしていのをとかってるくうしゅうくりんきなと りりれ上人父年がきなっていいのかそうしと幸士から 中心のりてから月のいいるういからてるましてはそくてのかみ ろらかのとうとあいてうちんなとと思る下蓮久元年二月十 の小だのなしまろけるからのくしてかろうそうちの人を別本本為集を いり西り上くみゆうようるかりうりからうちょうでを そうしかいてからのありまれるいとろしいのりょうてきから うろいしてよっかは一日まいるそのはどうとけっちてとなる しけらに かるしくいれのりとくてっしかくらけっちしとなっく こというとかっていないようしょうしゃいからちゅくしゃついつい つかてはなるととといのとう文を行内のいかってというのうしていつしい とようりよいのうんからきんりまる。後上へそのしころうのからく かっろありまわれるるとおれてとてよからりといろう してはそうしょうしょているくてのはなよのかってょう

内えかなーく対うまけらしのら又はしきかえのかなして思

りんにか国族なるとないかなか、四位かしてかとととは多の

かだのなしまろのかしのうくもかりょうりからわるできるとは後

南のちちなのりくは作のもうくのりのかりますこうとかのうしになるの あくらはよははなくかでもちとき 刻方提中的るから り除ではらずりして系のいとかりちょうておろかのはれた伝 すけ、見曲変像と風をないとするといういろうわの見の歌 ならかっちつかりよれどうととりへしきよれるようていほとを 人のない まってい他のらで水放ニーて気もちてする ていたがよりしどさとあるのかとまからかのろといは縁 まりりい福餅しやい名云張桜形記春草和名萬が利からの のなくいちいうれいつよんどうさしなるあの意見わのちゃしるとし やいまもからいのちらせしばらるなれてしてむのちろうちへし

一年氏はあきるるはっちかとうくってきていまっていまってい 伊密の語るとならしまさろうるかのてかのちん 川のからといううきものろしれつかよんところうないあとうちょう こかちてはあっていたのでしいつとうか、見考 うえもえどらてるめたるなは相言わらいちゃだれること わる国はつうきますのひろあないあたろうろとくかいて かりるしたらはおえれてういるきでもなるして自然らか かりる気をなっているようとういいあてとてきたり ころとうかいまったかりかきるからととう もありてきは他のも何ちょうしいろって

一体氏がも巻きてからめいていってからみっかとうできると の本のかけっきろうこうの内はなしとうしてきれたっちょる 天の中できるの村になるマかころは内のかろくかちぬもうや 女一人のきまったするよれる本詞してにつかとてきょうという てくくらけむろん自己的にはまないこます月五日でするて女一 かいいろいりかてもろうろらんにいけてのちんれろうとつますら けきるというではちんないまされるとは後にはないるといけ 世间添布の素旗はいておよけりくしてとうかろよりですよ むらんてのことうくかいというとうのうろのうろもとろんとくしょ 老庸生ないましてよううくしつっとろしてものうしつちょうろ

くれるなにると国いえこのとかくしゃついとなるとしいとすの一の ころしてどろしましなのかちのからるしなころくなる人 素後去のりくからしてするいときょういったっていかりかられてい 刻方頭が集 火きらそのにも 南かまりとろりられ、個百 のうろどそうろ ろきていてくれいもしとたからてんくのとしすときななん からはおかられてのこせいよりらわのうかまうころうなれていろう もけっちらぬくしあれなってやくるのかのうけるとだろごう たいようられて根かられてもならは除いはいのかまうるられて

一思松がえんかってもほよへかから、星をのれろようちょう

ゆうられいかあるとうか上りなるでしるしならこへりというとい おうる後あるらい方方で思いてんとかまいろうなれてき きついといってきしる最から次あれなのはるとうとる家とい うかったれい月からうろをぬける けかれのうしいかるう のうちんらうそういろ後の花書為れる住をのなけこま 月照れていすどほどますてくちのれのましちりちりいろいちゃ し後で大きた月のいかとればのかけのゆうからいれるとうしん れかいするとほうにてりらくう後京松及有家知らてしれかいまち たりにはおおからすとうのなかはすりかられ行為へか いなかきはなってはなのまだいろとらせれていまいかした そうしてそのよるとうぬくおきとまっていれるないない からわくらしえとりに来す七年が七天年大大大 は何な家持ちいりのしてろととうくうらいかられる代料回 というちょうしからうんでというとしてることとう文略を明を名 とうくもうとけいろうるのかはなっていかがくなる自他の知から 足んさはとらりまかのとれかってもようるといろきます一十大件 するとういる人の方は公子をからりをかけないると ていかいしてなずてけいのあれてりまするでんかいるをう むきい月ありろいろりはかけかご刻を今後でしてしていからって しまれのあるようとよりまたとれのつろうさからてるられてい

きにろうすると 日はなっちょくとかいうきるかれないころのからえいろうに

一原氏奏巻きいりわかっめくまでせるという一日時を見る候 などの歯周が物を盛せるというとはないないとうとしたっとうや さわかかりうとくるもく」下書待賢乃院内三百を解記録小器三子自己は解乃 りちわれをうんであるかよりなかかさらせてからいけれるようちょうりょう りのといきれいつのはきっちいっちんとうちらわかられいのちかやくったい かいってまいってきょうかやしまってるいかっこかしてるかられいつととのからかしゃ い色ここすれ族に色ない数くよいのできること見おいていわばれるよ からからうるとまるかいような一般れれいるなっちんから

きらにうらまは食味るカ月カリラくなわらりかてなるない人のつうゆきろのくなってはかまえ 一年氏 老さなりようってた日でかかいまることはらんうてから 雅らかりかもなりるるのましないからろうやりもうでは するといろすているときべりないながりのださる九日をあるしとない ちりかまっよいいでのつくけっちているとういんとう友不 こりかり後に大下ことううとにちょうけたりんけかの家ろうく 一条冬良公内によっとんどしていらいろう一時花さけ故事可動し すてきて多しくのしまならるにおれるえれりといわうこうとは のたらいのときくうからってのそうけきくいとよったいのろい よわいとうせみつらりとうろれいるのはしいからてんちょていて数

のようちをいろうもてある ばはいまちろととうかっかっ とからなってくれる らかで井内が見れて大木む かるとなると 方来しまする はうかにもこう えどではまなくし て気のけるぬ 文本集行家よう さられたなかかからいれてのはんかかとの人はかようのたちゃしててていると思さ そおさまで 九月九日忠房しく 超过院家百首 いっというときのであ とうしたのからくをのとをするうりすとうなのろうてきい かっきてるなさるとうのではいるとらうつきのいしてくかれるりまれやさかしたと えててるの体とき いてくろくろしるもの しません ろからきるい しんかんかんかん しろでれるのな な月い日のうとでるまた そうれらえなう 守 らすらちと大 あて大田でしまいたてあことれのよからは降きてりるからか は除ったもといてなるようとまるとからくろいくのかとかけるとはなる すいからろくかのもんかしてくらあくしくなのいろいとべつから 演就 のに金のかるきるくらう てもそう くいたけんはななないとうとかいきまちであているくう うのと本の官場公客は多いに半風とりかいっていくまていまいい の雑といったろう 一に面ある内でくてきくけのある者巻与いとからちょく ないけいかれりくしょうなとはどうなくるいからなっているには風 いていったろうと大きくいたとこうなれいまのうせていたり とかうかとれてらる様だれてとかるにもられい人がのうとは くまれあく すり但不浸するよれてありますすっとき幸を国をこれの からくとれのからもうりくくそからからいそろけんでとし しのうとことててやすれることれと、切四をの次かり いいか七月一日くうちょうなとませてなりなりまれてき しのデ しりどうなわりりやと推着してりのかいうる からばっちょうといっていちんとうとうとん いろうこすいろうれんといけにまいると 一からからなっくの前我なの東 めるかりのようでまま

んとことへらての事として

一をおかはるかな月のほうりうときのようといういろうちょうな うろうかっしるこのはれい きてはつりょうかろうわさいなななななくってはって有りというのん さりりんなしつることからいる相撲集かえいよりのりょうかいとくら 物語更花核江流景之書多你武寄生了了多名 または読みらてとしていろの又はられるとりというでする伊勢

一般水は大きんとうおけてのらからくのしゅうとといかくよめる 精終り記さかくて十余にようりなほとないつのひょうのかっと からくのいったのからはなるといってことけよいはよしものどしまた

もんどきけいこのるくからは人のうりかかってるであるっていか いりあとねんた,万葉十十六自肥前國松庸縣美外良久崎祭神さ ひてらこのうことる下ろうちのあまれたとるられれるる人はって そる)なういくいつことったいよのこうくろいろの一句かられて人 いあしたいれなきついところしのからかとせいとうくくって らつの一個とるいりかるるるとろらくからときてるいととうは とそろいいい神中から今方然同神元後云肥前門ちの治はない く父子おろろときに後れ我ひのりのはなりいとゆいりかるい くうれいまくうなわらとはっているかりついつきのはくうやころ うるしいたかえてかしていてるとあっととくとにってもらむ

一十六天日記を南人のちょうやとくりとってくめてうかぬいい 一まななまま小会のこのほういるおとり上堂にいゆて有的の一面のま かいわくこりる地内学の作子有自成文集者三新新 つしきもかいるまてたのでとるはくさしゃいいろくのとも 朝村道院花以供佛良之、河海ある前中書王兼中事亡等少名天之 與為本朝文釋前中書王自筆法年經供養之顧之"月残路影 らいはっつのれておくいまうはせんとしれぞうとないない うはくらくのれどれているしてもつちとて月めてかいとうん いきろいめいけの事態考本文可談也不必ら解支上生人 は倒とろう一定と独向いひらことをれと後れたとうとうなる

一人国国記はゆーのひとうれたなるもうかようしくの別にはさそてれる 縛我人公夜,明醒縣污成席了文集古本即作看言的佛の言句 後ろうちなあつにをはなくせんしょううかっちれいのか はみ はられて りろもいるしかいてちらいてるうからうとすくして 後古个 新法的云号小とけるけ父平底無切らところ りりとりくしかとくてきるころうかろくそろかしき人気が かしいかしのりつのあもしてともっなってくしむどいいのやし るいなかようれろでえて うろいたちろうかうてね 阿佛は ころのに後のわやとうちのい うるるえのうちもだるとうかしてわどいはいからのまてい

一和歌未来記前和歌得案生棉本智動家以抄之和歌得案生八 されやさんいっかちゃかのことなれいらいていいまたっといか作者 部類云安於八院不前但馬守平廣繁女之廣方不成位や へ續拾遺以下四条で入る阿佛のりから それまるとはしいとくまれたかのちのこれくらしして めつりしろころらからまちつからてなのとのよりららい すりのきかっなくての思いくるゆうことをしてあるいとのこかといか たどりあて中暑るろけのうとけるかいろしょうようころうただし ついていっしかさっとめくしもことのあってしゃってしてんけら 一ろくえるちょうれっていわくうてあるのぎっていいり

一清少納言なお子となるとうくろくんろうころもあれるる 前和歌得素生山過宿称上同與義抄前和歌得素生存下野貫撰 を申し信者すいしていからするうこうが云格本貫躬しは 悍リテ定家名不頭如斯カンレントン原氏何海抄左大臣善成 師洗自見抄る后のまるんとするくうろうのれとほかの言なな 公任卿金王集一和歌得業生柿本京成撰清輔朝臣袋草紙云 公作ナレ圧正六位上物語博士惟良撰トアル類やトランり方 人九貫之動性のんどろい者也トラフ心さいと是、世ツシリラ りじょいかうちゃっちるせるちないとしかわりの気を今ける後の るというかすんこのれらしくけこうれてうまくけるかののことが

れるないいくうつのちゃいからなる思をはくなされなれ ままりはままれはは必然れてかれ根もあんとうとるなかない といれるといれてから

一油中かる方ないこうとよりでかいかかくかつことよりでかいらく つきかりとうなっとうなめってくるもしのとうとしかとと ときってかれいいのくらるないいる、時のわるとはあってうから いっといかとくなってかつからいかっちょうしとときつうからいか へて敬木集えてかってとくととあっ人のよかかりりんと 術者からてくろうといわりのくなどり入ってのくろといている れしないるへいろしはあめらくるうしれてちしぬきようか

ちらってくりぬまのてなってかつろうあいうちょるくると かくかつことしも といろしてているとののいれつしてしるりしもと りついとりかきくまでは、一葉の像できろりのくかいくかろいる っつきでないらきままるれってといこものとならっこもとい 2ついてうちょうトとは痛ぬをおれの傷かかかってい の次はいかなくといちにはしく同わらうりからし敬奉 するに見る方ちかんきこもの類の次しなろうとといせられなん いまいっとろろろるよられているとうとうとうとうな 中をするおうさられば奥るであありなくいろいてもち というと同りことまるなら今著羽集中九六五月乃は名に上人はん

1

一後はんりとよいるこうのの伊馬楽 おかられて文字というしいまでからからななる りて社らき上にのりおくはありくろううちろうちんまた こりつのとうこのできれていいかであしる物での上いから っというおうかせてつからくありする直隐秘居を水奈紫明 多一寛水三年卯月の改御印えてとる領さらくしたか りからかからみ推幸在花貨魔まりているとれいる ないのひいやこりっというんはあるかあろるだってなかし 人てよみらてりろかつきつくはかましてのからというとくろめ とないかへろから るもいなぞうちゅ

なわかるかいてしていってきるろうろとこうのとなしるとはな ちゃわれのいまもからいわっといてあたりとはまでよろういまって ひりやっちりょうとてかくりゅうんひんかろうしょていらかっている はきらうりるかはてらけの老さりかいしょううかいっきて なるよくのひとうからかんとうないきとえるとするのけるよ ひともあろうり方時時日記をしれらずとかいならいだら してりかなんうれたのやしきとくあっちょうなありまされない めてるしょうこれれからわってりるこうかるしろいかいりっと回い るうるるというてなしのかつうと人をかずそつらから るとやく大形ろみてもいまたいとうしているいろうう

一伊勢大浦の上東门院でようしてしたいままですらばれて いましのありのかのいまいろうとうとうのよるいあろうな国集と きっかきすいてきてよいこうじきぬりのでとかかからきつと かまのうりょくいいあいうととてはちまりのゆうーふるな やかりゆいしょうして活動のやさらいとうできりせいうり おんがよういえりくし大浦を集る大院の中あるとも人 ヒタヤコモリタンモリニコモルラフラスン和秘抄る一神つよいと こりないんとうなりるれいちのいてようりつうしける、素哉同言 ととあってのうこいうられてける中勢内の自記さいよいと

一後撰集をあ場かよひとういけずを始のひろうくちょうなん かられたいまいっているとからてあるといってかかかりいって あくるうろりくしょううちんかる様は日しらりに集し すけいのかくれからまるのようちるとうていり云伊歩年まれる こるころいちくるようとこてるけっちゅうとしてることないて い我をおりなうとうりょうやい これらかいいとくつとめてつかひょれといそうしたかられるの よ一大ものううれてしいってとしころかられまかけしから 一人と思いしとというかってなるかりつうかしてきまからいるい のはなど人のむるもかしくうらうろしゃちりるかいろのたの

よりりりからしせのからちゅうし 朱在院もりのるかはのしにもろうえていってのようなくるの成

はできていりに気信と でおき ことのというくったのうしてもうりん機のいうへしたとうにあるうて あるれてとするそうなうからくころのとしるいつぞうもの 新世集るを今十八年八月十二日た大長の家了八十十年的智智 とりからのうきれいとけてもするとのでいってけるころうる

修法だ八旗佛の日とりいうとうののもうの内をうしるようが対するにある大年前石をはの日とりいうとうこのともうの内をうしるようの内を 声もけんなえいとのはなくうしき中をは親王百ろかかちゃ

同之を原出第六体は信じるくちとさくこうか~そろんA

とはなくのうとはよいしかくいるなれるとくちょうにんないか

けるうなるし マースをきべるの

松かはあるはいいるはてそれ二十首を後のせるよのしかくころない このかとおうあってまるよるななとれるもころになどもろうあ 信信鳥寒林獨坐草堂張と有心と思きりるるとをおからには乃 らっかいのたけいとのあめけか性霊集才さ後夜風伸 明くあってきけいいははなり たのいわされいとっているのはははないまた後れのたろいずきつくろ

一はお集まするのいということこうも同したとのうからもろ それのうのながれていてするいこいといれてのこれら 自気変衣 わ済みあつさのころうさかやい水らいちよもなしからままか どとうくからしるとうとというとくこといいとろいてくいって

こいとなったきるるち 小らいといろういってくまま西からといろのとだちとう

一ちらくるなる人であのいとるけらかろうごううとものはるを押と 作者暖るよくとらう いる一つつろのちゃつうちょうといくはらいとううれん つうゆくわけしいりつのけの林のかい動松き秋教部で 大いのいきにつくまつりるはなしけっているとてかっ からくいけるかいていてのかとけなるしないとうれるあろ するがらきく見る伯母集事でまったってのひしてのをご つくろくろのかようははものからといとうけ生活ときてんと

一日まる時長明からまのわくろかもかられる後の奏いとゆう かしましまかあかりや中級のっしぬないかっけどうというけ おあわれてかかのちょういちましてなくれる月のまれた もりとそかりるこう自者である語いなりのになのも 七日のタくろうしいけんの上はる禍いろうずのはなまちりし あたりかとこれでうきかのめかいろうていていている とろってしりからりもてそろし、茶のつきしなりょうべいかははは のちょううろいしきてしとうられていらくころのはけ うすいけいあてメートしのういかくよるきわしのかま かっくしてかいきろいいはのかるかれていい野まろうなる

一小のないをき方近これのようしるとまっていろう てたっちょうしつろしましからっとうしののしるようか りかとるるいなりときくすううしとうてもうこのとからう きることのようりやきなりしませいちいてはのはまいる りとたつのないかしそいかのいろろうとましいからえ うてること、ろうり人と書う 見方行的大順張さい からうとうとうならんかとうかくいくいくいししている ひいとありりりかきてもうとくみなもうる中流からできただ すいすいはのなくとろうしてもったてものこれくれなりとう のうりかくまとつるていいからとうにまてれるのかい

一ついた果香いて京をあたいなんのなくらなしいうりょうりを養きせ らき でいっかいしいりへのちょうとしまうら同をか起か 宣佐人年高陽院で首分公二者たねに来る既命長分羽紀集 ないなんとうしろといるないはまったのうすようちょうしかとくない ううとりとれいあしいかの店資王ものりょうつうりょう を続 大例言を信くとるみのあしかいけしましているかいよかっとことうん 行からないたりしかかいかいくまつととしてるかとすしこれりと気 よ同したには随意をあるくちとうもうなちょうここをれる ちくろくもろうとといたて行のかーかとましていまる人員考

さるというできている

後世任せてかんでうとうっちんなる湯だろう 七あろうなりあいのうかんさくしついかいるでも かんせきありいしけのうりかともむっしまるてらいない とろくできましこの分のちょうりゃてらっと そく ことことろしゃいろうしたかがめつとうしんと ぬちっくしょうらはっしたといのうからなちのうんない かられるうちといわしてすべているにはおきるおいない 行くもいろかりりっとよるきゃろうっていいかであ かることもあのかいころくてんもとこつきょうらうしていきい うた、しいたとかも利えたるめつりきやうるとき

は成れなっろかってのけろったかくまらってとそろし馬 きつくちいさもまといていのかりかとましるしと ちんきまらかくなられのうちれろうろうちゃん 車・ナーきくこのわものかくろなさくとらる方 するへしちくせんのごのうちんなのかするられの味明と 後接難一えまりているのかかとらる人て大愉ら でかかっれるしかてなくさんのこのいろしまてすろう いとやうしくとはしっの のもつきかられたつりしいからよすといっとあるら くかくきいろからて大橋ありてるからのれ

egin (s)

てうなのゆきないとううきていときしたうとこのみもの 風なるこのみものっけるいなしのらのとくのなるできまする かっときょりどろうしょ かうかる からかわってをかの とうからはからとく福格となっていうそんけっちつ ありるはくどのわるのどうりょうへてけるる人をうなるい おかいすりちなのもとうこのわしてはる経例といや 食はに生ます、難ちるかりのするいとうではのかな いておけるあてしかいふりょうへいやれているところ すくすうらんいろいとういてくるてすりるこれ我 うるとよりとところのとしればうりぬ

一日夕かできょうかきいちの風の大心からきられ あるろしのうていかかりてもうとどすまだのこの からステ中公平の上りとなるからはして祝柄を発 きょうたけるをたの朝腹と入るものとう けるいなのきものことといないつこととこのかるからも かくろいけてのと知らるは心を残いあれよこのみもの わるるなってもこのみものとうにはいってどりて すいめてかってきっとしてくていくのでんどもときるわ 進る気とあるとうとう歌らいははあることによるはなの するなろ腹よいするへからとちありつ

いもわのをなくかってるのころとうかんとう うるいいいっかりでと かすく大賞なのけらられるよの、分またりと付の そろはしとなるとうかりかすりいしかとう ころれきうのるはんないめわるすりといれるで とさいのゆのいというはうにかるかくるなくり る日にこかりそめいろううりきというせのだけらうける なしなしからやせるしょにはなきるかいろうちの とせるかてまつうといかなるとろきろうとう

一种中移前河の平かるに大後がなみとそのですらたりから すいろうそれなのでもれてかしてもしむまさりますとれつ や中待へなって不あのは好外の角といれてもしのあるらん がいたとつうりあるいろうやそからなるのちいれっているとう ろうしゃ たくろうしょうくろしゅうていたでうろくはうち てるいわるさりてもしかられたといれるいかきのいつちろとるわ うつ~~~」到方夜鶴庭到砂地でうたきろうわめでする るこのこと人にあるのはめはってていますいきてもいくころん きょうこうて、えていれていて、大きて書きはれてる物を発 しつさてんまいろうかように強えなけっていりからかりあし

後於是系数人 かあるっとしけ うなからなかして国考夜聽庭剖からないつうほとすわあり終すと かっていたる 琴上葛松鳴日落洞中松樹靜 子幣を時琵琶だが一族も同事 からまははなかといろいかかっとりらいろりのいろとことうてある 本報 一門後機能下去二年のはわ川山ものアノイでもゆうことうで →であって、最初来されてのは 取りる事でのなって見なり 京二名のはわりないさらうののかしてそれは行ではし るちぬちにはなり月のうつけるができのかってくってんらっ ゆうれーくい大格会福中福代三のろんとちゃらりしなしたいり の礼等けれきらる文中国家の後とて学れてる被香だ書と 一をうちしていいったなのはらていろうとなるとを受け入め

一後概果意かてしてこからりまするゆいあいりちのとこれられる いあるるのからしてれるのかであけていてないうとなる きなられてきまするちもいとなせい国内であるかって あいスナルトまてをきてれてもの人をあめるがりませるとなると りているとも意見くてするいとあり後風を、同一の梅記初をい うひょうかはときろううかいかかけられてくうつうつきまたがく 五文なるけかるのやいうな考に婚れた奥をおえけかかんりつう をいというきならうともってものあっといけるといるればする あからからいさいであったますっとがらかっといったくちい のゆうかてうとはあれるううとればするものくなもっちょいちらき

さる(一、変形

三代集前事を随後でくるないをゆでけるべろろけんととん 逆はの意と見けしたいちとう れつかめるといかいはといいんちゃっなとやたのでいういかし すかいないいろかっぱってかというとうないますとうとからから かとえてはほのといかとうとうちちょうけるまとればなり わりいりようとうくうでるとのやかりといけれて何なるをないとなるとう 若なとむしとんりもれかきるしやれのまかられのなろうい見るでる よらうちよつもあるうしるこうか、二句まていわすないるであ あると後機四数と恐怖系物の一要之歌へる童彩がから

一口来をあようちすのうらとろうてくんくんろいてちてなるとうと

ころんして子はろいてすってするな機をあるもいをのととるわ 其本養持療物被郭璞注至董下白騎在泥中者也一些美華元內數公 なりき、後ろしてをからくはのちょうちのことかくとよりから のくうらかのりといるといるからろうのでいていけらていれるい かれいこびはちくてもめるを電客な政治えていいったとろり男 といちったなくか人の男とうべてこかなくいんどもしてそいないな いからのあり人のとうかのくそきてそうけるうちゃいのできる かめんしたいきかの中におひけ 自考見を持ってきいろいと 小者に入別が云さい、夢へ蓮のか根かり順れんかる熱な かりりょうり 色春のかめ一天人の初を字章云苑菱輪根之

内さられてきたろう 一克玖波集三あつうてきしめつるるそろりいかり 神中かくちものうらいのありれるになりしきているかいん のすちょううなせわるくりてすったの気とからなりてめいて りとていてかてあってるととかいれてり着ないかいです 也任用、指熱二字、物學後多種院內付收視的了下的一切了中馬乃 たの気ですとうていからとうあるとしてもときから てずらどううしてちらのなるできますってひいかしいってわるめ 名作了了也了不是預和名物名學都名人爱恒指學以此多聽選 後川ちゃーりらのうわわれた気がないとなるまからかくり かきい上西门院をはずりいききとうまっていろうれた男门院

者となってかるころ むやのあるみさ おのおり込 からいすり使る御射山祭り日徳屋とゆりとえるたいまといていない 頭をかめのしを本ちかけっますとそのでもあってきべれるべちのうだ のなから、一と常はまるちのは射出のおきいろうておなととうるか 国のたろんないからかれたないなりたちあいまとうからまか とかざい巫女の者でしていいれのらのちゅうろううかてきん にいっと月をりぬちのかまのおまにずいらいろうこともあるから 人のむともまにからいらなんのぬやくりっこうといをきいれれ人 惟一金刺露又尾とうといれめちのこひとありている秋を うろうすきるうとちれとちきいいっとかのでるの考練人なす 山時とかからをとうからううちょうくーすといれ蔵二字と社

まるかろなのぬやれのれろうろちょちのかんのものお地 おおれて丁作 石色八版 らよっています世俗りと、それてってくるでは不使されなる日本れ後日家之か腹のうちのかの数世俗りと RYできてき、後れる路でるのは見来くめるはんとめやしき後れをでるるよう りまて形なから 「あるや、足支及五品は梅と、別を玄魔、無几の降り後数のだろうとかか 七万月光でころれれる物で共意之是独や夏寅奉之 ちでするとおくますれい肉を養者のあるとかつとある ちょうなんれるとかないなうとと此の格とうなかられのろうし れのなとりつめてなて名となのかとはわまちなくれて石をち するちゅうそいたんとれてれるこれのする りしてるるでありはとかしなす からわったれてうれて概度となけらいから くあたかから

一松きます三秋かりからゆうなるなったりとう というううるるといてているからゆうはるなともかりしろとのいる 物でなってもありのはようさうりまたのはしいで くうれないのちんりなしれのっていたのとのころれたして 入てり、ころのからこと情田向をあり石川三何様、被立入水门行次 良運 放武河路之一日以外了上路之间於會城 時間追。石门三 はおあれましからりしからしつまでりため、何考の草子と ひうめてよからはありますていつやまべんいるれのななりではない そりてるはなですのかれなどあってくてんのちずぬやしょうととい れどくてることひりにはる大気のかくまゆのれなりとって

風の男となってかる ういろかのかり うしょうからは あためをぬをいかかさのせるのどったらあてあたかってくろん 御氏の秀本の 風るひちろ りからううって いくうれいくのつせょうけるといかあっくいのいろかってあるうかと 近かのなれってむっちってあるであるとれるのはかのときで ますけんかくしょうとうがしというかりまてとのてかとれ 明からひ最からいっていつのうるれいのからの関を気にて のほうとった後に利きるとあっちくってものからことの高し いころりろうろうこうかるあかるなるためるたな動の 台台的如八石门歌又被失次到考店的一季才月往经及分公 爲何からかけられずっておりまけせんだとかそ 三橋四 味テ其八石豪すて作るお知給我不使了 包選用口個

404

一体電おとうとからなのは、まなからつきにもりてからるか のかくとうとなっても 利を食の名をなんのけかのするいろしてはちゃらうともっき 物名となくといりなる、我からいのようい、れてからられる かるからかくきころの文を一つとぬもてしてらいたとうと あって、東山りのからなるのゆうからかけて思るはである りならなの名とこのさととのうかるですないとうなっち ことうしててくるうとのようと ちめき人をあるる 風のるこれのかい でするのろうかかくなっちゃれいるいちゅうのまれる しとすやスないあってもいろうたらえてりいてちろうん

į.

一大小年からかかからすめかさきつのくつわちかのくちん あれて我はいかっていけいけるころうとはらのあるるかい ないる。まないあるからないないなっているとう ひちゃきゅうとうりょうびいろをとゆきしないけってしる成 さいあろくからしる後にのないとういうつからするとかる ある 前方けるのなはかららくとしているのな けきとなり、あのあいさりなあるにはいるるそかでして 今入でおめるそのが、おいてといくておかりからでは ういかううりても多いわれいかいめのきたちとれる 徳子の親王宣告はくりととなるむろのかかけいちのなすべ

自傷物からうとういれるできるいなくしてとうこういののい 三年八月人九任万見寺同九月三日在光京太天正四位上行办年三月九日 えいいという方二を目标本初后人屋至石見上にたり 人れのてりめにほり本れかるというちからた祖去をもく といいものとうとみるちゃっちかくなりと歌へかり 将軍家しては席人の付けんできいしかまりや陰里でかりて そいろきていますってられるのかろうしてあるみるな 住七代朝者亦下思るとお家古今初之人九の三位のり公で補付る 任三位京播磨守自介以来至持統文武元明无正聖武本蘇御宇 かれひしてくう るりある 刻林様ののかる石見画風を記日奈

1

一文本系類視のは二年古をみを院入れるでいるよう ろうちのはどうしてとなるとであるとないとう 自然 ちっしいるとれまりあとうからするとうなると ゆるがくられてくすぎてむしょしと通けれいわかともつのから すくいるともとことをなっておいろうのうとりかくしてない あなのうと後へで又たなっちからいれるしてきまとかく すられいきしかれるいちゅうしゅかとこはなられ いるしからくするなるいるましっちしれる文度はきん するさいれとなとられいはれらかくかなるこれる人まと 今よこんのこのえてましいとほかんといるといいめんなど成人

一千載集務分上仍如光受维を含の棒牌の行きといりないれ 格があると何はそうはなけずってあいいれころく 好在院在信公家的可な了人 自知る信之光差からうち ろしもれまればりきるある後ろだしろうる いないないないとうとかりとうであめちるとろうれてえるの 經成就聖經言 傷群在千瀬之未添,現中水,去吸,嚴底東,一日三、徒後時節長不然 いつりまをはあまったしょうとうというとうなな でかっていきかしのれらから引着を後ろまとそん 白民文集遊陪真寺詩云往有獨經,僧身静心精事了感被要外

ではいろいろくてもなったまったいとうなくてやう るとほてたこうとですの後ちんなといまれてらくらる みのりとうお婚うとくりかからるとていいつうりとくろ 金てとうのりとかれるりひスキナナけつらりいは郷とる 多うくなうの又な月のあるころとはなってちるころしん りょうやりちてこうないかかっちょうとりのるとのなら ムサイ、又をないるわばらきつのでありてしまれているしろれたの ちつしれどうなからいのうとるわかなれれてことの しかい水がはたのうといいかしいとうと、我のようとする いろのできれられらいろしるの二ないでれる

一文不集亦氏東人四来石や元殿係都思からろのうるいると ろらうなでいりきてくのきっちょうかい すきらめであったから人をあるとなったっているとうから のそくわらは基後がまたいるいろうりののるとうちき ういるなるのからしの又の敬意教中しむとは記をを思うし 又を見のいてきのかちららしかからるとろいかて東海信記の るかとするあいくのもくしくのならいないろるくなれから いっつきかくりち井の神をい新格色事家のから入りるとあ かろういあらくのうないちょろうつきる人気方をさけれるなか りょういついり なっれま あやなんとうでもりてはそれよと

天陰夕雨降辰府出京参明月記云元人元年四月一日 一升柱抄程候至此原因附致河东後島仍院内網棉车里外上了人 それた教学の行行者是佐殿し水を飲いれかちるをあると ちならなまないないであるりろきのない せんといいかんない後あれるはんるかれまけるとしかんこ とうてている二枚するいろうわらいして一枚くちくしる はっとうかってつひでしかいれっかっそろいれら かりけるかっと すったなからいあっしからとしからえいからけるなのなのと てつら精本なるつのなるもですなとろうしまないねぞうれて

ちくして又さりへのかけわれていましておかさくしては今ちょうけられるとちていちかの記したなりはとられたいちをはる名の連ばないしてアスとうへの数ものけり進みて足をを極やかしもられたいしつ面粉なまし

同で集る同人以東本題各級之當座境打入窓がなるのへいからてる 所也下為同三月十八日早且家長奉書今夜可宿者心無心連飲,可 のたるからいけのえなりょう早帯思なりたしるのるいのと こしてはれてすているあるほうのはいるなるとてありる かけるうろれるるるな後をごうのれりのとのをはな 今で頭優院の第文智等を係ら年七月五一日有からのゆると 又出神馬場殿各應召参入無心宗之小在京有心家在面之是御 いきいきしらであて好の村の見考明月記を建た一年方古 すこか、人名のにあるしせきため、你有意之後名的院の日は あてくかきのうへ送了らいいはありとくいうとりてえい

ちゃしゅれ 大はからしてはなべてとけつだ 青山窓 教会といるなというないといういますとうないと 建方がりょうない あせとれかつは 打ち込み すれたを井入せるのではりましょうと しょうしょう きんかい はいかん すれたを おんかん かいかん はいかん きんかん というによいしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう もからればてや は、意かられ有心をつけきがとうられかりくなしきならでなってい · Louter 一つってけいかんらいあまいってきっけるてきないてのころかって

一角のとうきというかかいるかきひろうつはき ある人いっこのかわとすめる大きあれらちまやけようきやという こそとうべけかれてきららり方ならいる場合からかれた ならううちからかからつありれいろしてのしかねいっかのいろく

文サかかさ、スとおいかれていのるといわりろいのなとのくと つうりょうかからちかるる又ようられかわりとうちゃれちくかの 又なからかあのうとうしのすっけんとうりとかかけるう うくうしきって古は中ので、在地、父を死に変せかれていか 了んと減了好更我了面中仍有可見之英明中科で考 かわなていかり一何のかく一流を書きかんをかるこうなやし てとうきんとろうでは少くなるとわるといるをうかのたいる あの かわめてするのかととないてらしゃずーかれるかい

一つきくまるちかないからからうななずないであるの

ないかいいいいてあるうちまるすっていかいところい あるしからくしょうんとうなりんくしるとわらいるる いるかのうとういいしてきれかるときだろうか 何のくていってはたわつるてあれるは後ち多ろりわすう かららくていりしょんてもるなとろうそちのは入りです することをこのないならかんでうれてきるるころう あっからしいのかりまるののでいろれなれかのすってかり いかくのはってあるからしてあるながのりとからするようち 前者ののるけーとを揮门院内とは海倉のよれ入場著 うるからうもろうののちのかいてろうきずしかる

一口書云後少ろかりとおしなののひと前云室四分の元云 坊門小舎人具家一个前二条小坂殿之後園三分所安店院之角 居應三年四月七日大風雨及申下刻雷鳴滿九衛途雷火家三余 すると人やっくわりちゅうらいいろとしいますしてする かくるんしろうしいうろれているまでもありいくというしてたなか るなは次ないるをあるるかからといっろとかってかるとん あろうるととからんしいかできるとうりのできまけんな 中國人の記るころかの事しるう著写集を連得のはの場合を うちてくてからゆって といけらしているときてくれてころののとり粗初かっていろ

地藏堂一本取尽震死五人

四个日本自然 (1977によろがあからならの)なり回じまる「神君子を全ななで、神君日大時意」名家、弟名君使会小五月度にえるがんのかではりよからない 歌歌書がぬる てろうんとしめのあととろの考しれる所信の方金和を後 當時路中事給了去九日新日吉小五月會 文東九二年九月六九日,在衛附清經昨日自京都下着令尋問 はは中にをおりて外後行民の成えというする東越ナ九巻 山王東徳のめる わらかくなりハンから かからけのそろ お見てひみ上 年かりのりよりろけまりうけらまめまれた なりたれのかとくてもしとのなりにもないりとは 村はいかりのならくことりりとんゆるのまときいると 今に別級番と茶瀬本所を行政後はりかりかるを使み来れる各の女月会とから何会とからの下院なられているととがり文之後の五年前日春の五年前日春の五年記入年の前春の五年之八年1月春の五年記入年の前日

一大和知路のとのはのう事人のないめのて七年のなよりくはの 神中かる頸眼を作ろかかりるひととのかといくてからい ぬれるちゃくへはのよいいのうかっともろれてきいると けるころがうとうととうこうできれるからの時 なあるしのうかかりまりはいるいることにうくというでき 見考えるかられるいろくかのけるのころとりろくと ゆかいつとうとかくとくめくとうろくのかっしてしょかってなくる それはからうできないかなましいあれるかろうちょうかの くりそうべいっというできれては水からはではりつして やしてうなんらきらうべからてるからでものうちょうの 建水元年五月八八八天晴午時後大田雷鳴末時情 今日新日子小五月三、明月記

新劳养文母介疹 有称 农村 太文本 有教 农村 太文本 万弥集住設云ち 朝之八陽源示ラ 出立朝 暮 东蒲美 別而確妄論遇不 行うちなっていい

ういろしるいできるいるとありれているできる いしはんというかんうなとるし

一種和我無難聽去事る以食を本人ののりりてのとあらゆせ 被柳大波羅江 侵大風諸國 核較植之之間為体弊民煩所被延引也仍今日以其后 成方東總弘長三年八月十四自朝天陰南降雷鸣歌声則南風烈 雨脚彌甚十姓大風被樹民屋大略與全所易同亦音天晴柳落事 これでいってきる時でしれたちられるころかりもん するのちかのころもなどさらてありかけぞうかてよるなと

一はまることをおおのまいろういるとどのゆうえかると

一般を明えるめらるといっとはあるは浦のいろく大から今らって 物でかくなんなくして まつりて まれんですのかりでもあるの おめて うぎられのらいるそろんゆのうるまたしなとはらい とすくさくたりけんかってわせくそくなくしからいかてらい わる一数ちゃんの大阪東東るないはからのうれらりつかりりる のあるからからくけられるのはべてういかいろいりゃくれてんね てゆいってまつうとろ してすりからる事をあのず大きるおれてううううちん うきょく なくさいとらも あっかくてなくていくりけるがされ 以がありいえとくるかられないのるとありであったかりんかり

というからの かのもだるへきや ま不見 保化之家 · 到を脚中却に方の作者大客を気佐を有り そななるともていり たろうといこのれ しているからうちかしつしまするろうれらのものもあるとすりのい 上なっていると まも行うとれ このもからいって ちかっててかる きつかの文書 後まなかのいろ うないるをあったからくいろくというとんくりつしゃえばんあるけ うちろきょう できるとなるされるのでは、後のはあれば、好極格のあるなたかいると ~ 松焼をあつ伤さ 家城代合公為京 うさらろんこのといるようのではまりが必ないしい家 元年九月土日大井河柳幸の村費之れられ紙あなるるのかり 鳥鸛、與利羽ノ橋ラ波テ此面被面行如布上書えかり三党悟言本 い了役化山からば佐人回とと答う後、躬順便名席と為 ものとと 財産神中から二年院教上学者は は紀免後成 う事かられかれからのころいのりくか いちゅうきょしんろ めずのつけられるとがあるとなは降電がす

一日本名後見てはできるかくかかりちに信む基後でうない 切んかつれておきるのきるいのない怖いんきは一型 かれるでいるとめかないろうとのでれてる後ろうの れぬいろかれてめてるているといつでするあるとっていきまとなるな てもついろいまからを見るからをひかいろとぬてませ えなれたからあるかのものなっているはのないでもけてとす それてかしてあなりとうに後れるかられてるみ うとうのゆうしょうと めくうくろうでんしてとりとこう 歌かまる ちょうしょ 歌なれるひにこのもかのする ラス やますりいますりいるからいろうとうとるのをは てりつるるり方のならからなる一名た後打切けいち

在子文葉公子高於室臺皆畫發於是天龍閉而下葉公見之東 而遠走之

一同書るもんうのおうのといかなるののからいうちょう 一日書名後處でかったのなくりですいりかりとうしゃそりかくの様 このかろうかりとうまくいなりこりないの気をする **南云山谷珍弟。用門至智、陳思己對客揮毫,春也将** せっちゅんしょうこうかしょうかいっちゃっていかのから えつめられるりゃんなりしきぬうらりてきりましていり大 てまりいかますしくとろしてもうしてきらんずれることので ちゃとう へーしてんておりからうえがらかとくかからとき

跡地也等電為雷隨此地成岩之首每歲六月并自祭之之 竟等石在藏王森南田畔長見寺领也寺僧記云竟等供奉養 あれてんがまれいさりつうととあっくいちんしの方成記を

日まるめこそのあどうひとろうようとんうあるのと ある。花のがんあろうろくようそくやれのくしかちちょうう ろこうなっきとうかと なっろれいこのがといろうしろうし めぬなるとおかでくらもからちにてくるうて 中面了了一个伤色勇者会是其外色中,名而每千和

一日書を何のですもから在するいかいりょうかのどあるよ

一年氏福金老七分四のちかつのい何面からなのでするう 一方であれるむるからなくこれっちのうかからいろうころ ヨスレト被中グリケルトキソハショセタリケい魔ララを奉給テ 之様らい食精預給ケル程"滋性寺殿食麥給千車リハハラコリ 令出的裏為當鄉子車,例車人為寄今といとグラ無可達用 きてり風な見後でなる私妻がみち人後候後院が信題 三百六十きは我での门回にするとつちかとろううろってくれかい 福といれる集々精俊記事自生稲也さるをするれるとの来はの うりからいるいいうちゃくちょういいなくとなるくかると からるとうちょちくるめでもあからいかのあから かけっていているころなとう、動をひつちい方のしまない るしそのといれまにおいてるるととな そうかんとうよろらずうしょくおうとうないないのという 人はぬのうとはのとうんやけてからちんをけのとうなけるは そうなのからかいからうりははあっちくでもちろんでいるの いちこれなり前を被運法作家集立ひ一番年初を河内回 行うさされてものあていつくともちぬこかしるよるのほと ちの何くましるからいちくかれたからだりちょうつきあるうとな

也を存在を変えている。

カリナント有神足、テルチ車い輪ノチイサクテいり、愛り前いたい ケリ不和子細食、橋預をいらしセカリナリ来テレーシ給に見る

一升超对别本云液掘河院(書在少岁人了多多被大种花井云八年 一松き集権動を放をる東ボーなこというころである 熱とていれていかでくのはるからしぬかかしちので 三車のかろうい輪のくすいのに食ごれな易就文を紅な明教リ るとやらつんなられなくとういろうちの見るかりる言語 いかくてとれてらからりてきているかしといいかから けっていいてはまれるのかとうてからのからいれ

女子をおないようなはく明月ならってんまたのできょうん いず、中間ならうろれることのはるかかからながせるれてんなん 了面「ラーーこうとうう幸隆周書中で文定奏学院よる面へ一子以 ちていててるりし、別とけ男者文学かの変漫院准なを要のうか 一それかとく大はのるだとのうとかかのあれるうりしゃ りせんとまてなり一そのかとまろうれりをいくら うりき一杯之又塔越が山をいるに上古いるが何石人の 進ぎれる欲分大概各数十そなると教らからなって つきかのかかのかかし、新撰百人一名 諸院海事事を石人

一方今年春沒自大傅里子之初作詩城詞人文子幕風絕歷日朝考 そのては城とは了今人なる着今年を去あたを引上与子 のはようりははずりつてとどろけるりかられていることがなるころして 也容止墙岸音碎俊朗為天命開到天里所愛及長解有力学 日本紀分三十持統紀云皇子大津天停中原瀛真人文皇第三子 中記真他も祥裕了方の、今中人之人人的解發望而請小會小百人有異次叔及干首《人員云中教》等望而請小會小百人青星次叔及不首《人員云中人的校時軍家之 大はなるれるないできるとうころうるいない 九受文筆,詩城之與自大津好也愚舊抄慈禧《又大津の皇子陈門 雅行子はない~~切白之後多名院項使免のですいりれい時

女か石人のあがとらましゅけらず大智とをよれる感

一一新載雜語云新亮政政集品過三倍解一至仍五入今日時空子 或が、出セリ 道德表大訓驗檢寄與等養無無術成能驗海大津重子時以 皇明先日月,帝德載天北三才盛秦昌万國表臣義立言太懷一起 皇子之意であり・像風魔云淡海朝大友皇子二首立言侍宴一純 則大友先大津,必美放望何不新大友於作,詩子亦可松 成的持 統紀了一て考慮原係了先是有大友皇子詩二紀未知詩城起放大津 公下我心魔山文幕守人十五帳風漆跋云雅紀淑望之情治. 獨 あねとちが南のからりか一級なるとに蘇翻也未錦繡の 大庫皇子婚作詩戲而今德風藻載天友皇子詩於大津上然

資清法石道真上五者アリ被道真ノ一男鶴女代北下の無類重形アリ 惶命與スラレ侍十・東乱記さ爰三扇谷殿ノ老臣三太田備中与入道 シニ通トモニ今ニアリ其位者ノ下三管原朝臣道具トアルラ見タリトをこい 金勝寺、寛平年中ノ太政官府宜り管家ノ奉テミツカラ書と テカカラテテタリンハムサトンタルアント惺斎ノ語こと時に近江甲費 いらいしせとかろいあモノナと東福寺ノ思極天林空号ノ記書 がんとうかしまするのといろれることいかかくしてんほろ なゆかえてなけれるころないる相較子を答象ろか 新機をあばまるですいたのたち~人よな~ 送らは作 関あを切えたかちりあらいまれをなしるしとしてり 見考

加權護

千代ラる寄至とテ明テ加冠でりテ太田源大省長と号し給フ後ニハ 永幸六年歷極禮方作天滿大自在天神養號記 本羽神之考 丁ナシサンに 奇道に父入道ヨリサン方成と名人にけばしてん ちゃ 備中守道灌入道是也比人十能七藝ラわり好公形三名ラ頭いサスト去 山内をす被見了御來望アリシカに扇谷殿万金のモカへシトテ枝鸛

一新被死双政集を感にのほういちからないないというになるのう おようのいあかんとのうせるいておれたかくとうるをあいてり · 員云道真入道了和歌尋○ 建めてくてやているいきのかとらうはつうのうとう は你女子でもすべたとれてりる見る古野松遺養院教養者 りたならからなさいれていちですのしたいまは信奉へるを

なるのしいの 清や歌きれることうしきけいてのタますゆうしばうあまれていると いるのとなど 一体なるのうなるとうちゅうてしるいまっせるころちの かふかってきていいちけかけってならってているてく よって 自るほかがくころうてえるへけれてするのかっているま (まういろからうなからうのきかりきてるとのとうよ うてっというとれなかかうてはれるちかってうれなけて ようしかしのうをなて教をいておりかりからうつ くるきでいってるいな動物を始えをてるれい月からは さいくとしていているとうなるかちちけったいのなからの

一枝られるいりとなりかついちのもあってなるでいちゃん やるむかとのいろうすってやりついましておればとならって 文へくろうかしいなけばってきかくものろうかしょう 招樂湖邊三多三個年之八月一喝者也美木集之家集轉了信打公下 れいかて見るかけせてうううの馬、私必果久随随后本草証云 ひつしかはろうまされているくなというりかりませたちょき からうにはあれてくうな ゆるりやある方のかれたかりは白くいといううりもいけっちゃく むくいくしなるるとはりまつうてでにんだんできょうる めれてりてあれいはかけることとかく建せるとうしもりろ

一方ましてるる後七日といるが、我とて切ってっていつていると 切らこれかのつとくけびてのあるととなくろうちをかっちる 佐いうなるちいは果しているしょうかるといいかいま おんかかったんでくろうしゃりょうな人ろしひれてくなわの かいさうりらのおんとてからるとしてからう見考をはき れなりますをおる アてれるいなれなり 見を式合わないで なるめきろくいいれや又なられてりなからめとん 一ちゃってまれるる

一日本る人ちゃしているのかとうなるのかのとくきずんかけてこ なられるいろうとのはをはするこれからいろうないまでいる

あくらんいかかって一天くういらとの人かのすけてとているかか からなういとりているならはのとうくうつらしのな 三種のてきらっているとくないりでものいろうてある せんさいとうこううろうれているかろくのかっちゃんないろけるるこ よいすれっこととろうとのへしょそとのてきといいきある 後のさくならでいってまずかのかろなりをこうなでをあるまびかの そのかはあとうすしまっとるこかけんのとるはつちおう こめってい せんさいちゃんとしひっとうしょうちゃくこううかくに りかっちょいちてそれはちろうれいいろうとらかわっちゃく 大本年時長州伊勢心をね のかりょうけんちゅうらいろしの

一种方分集。老偏動生成一名说中言人们为公子法人的爱你的父 しておくやうけるとそうしてなるようろうとうちるいろれられ そうちょうなかれるこのそぞろれりる中からうい 教康親子的子内親王祥子内親王等之內如人各有今日以外九 不一了了」前を佐打的的の分大本年了るののの内でるそれ為 るやくてうるちゃんちのあちょなうゆうてりを中容のき あかのあとうりょうとうしくとすのきはっち あっとそろうもうとうなとすするこれたけのなっていると ですりのれるがからきるしていまいろうちとるいとてろうとて といううとしましているとれるのとあるからはをしたさくなく

一つまれるならいなりくはのまたろくとというから よいうきてごかりありるやうちゃくて十割なる名を変 ないてきるようていまないとうとかいろもして見考をあす ナラかっとあるかれつうりしなり、変を之後ある。我た何を夢られれからないからないからないというないというないというないといくいいのからないというないというないというないというないというないというないという てるとなったはらくのるいからしてくりるをやんきる ゆきゅうなしにしをあるうかれかいとてからしてのけんうらてつてん 家集るがおちりしくなりかり又なな~~~かしそうか こうのうとてちけの思いさなりしろうるのあるとあて ナかりあいてあきらかくろにわいからんといろうかのく

一ましかり記るとうろんるかろし母とはちてもないか 土二傳ル時ノ人量也近代是ラ等身トラスならの願き少等身んへ 八尺八佛在世子時,丈夫,等身心是才半丈六十五也去人人佛法漢 事特ノ相り妻スルカ故三一倍メハ尺ラ増ス比故三佛ハ一丈六尺也又 法引到大六八一丈六尺也佛在世時人丈夫了身人長人又也如此 すりなるころのからりこせてましてみるているころいのうす てからはよみとうかは、あるそくのかぞくないてわっちのかかく かりる、勇者為憲教を見り造佛法大生於与其尺可有於太殿其 えることうとかないともしてありるのはあからうがろうな いからろのあいいろうときしなけるとうとろ

一枚きてまるから東流のは内のなるあのたけるかとうろしている 不平見夢、我とのあの五なだろうへろあれまちまする れられて等身をいろううきょうとういは何のであったう かってあらいすっちともかいまれるちしてあるをねでせてなり 見るをはるなるといろうなんとうかけるうのを治治 シ又云一標手半い胎内ノ等身也著聞集云行等了といった かっちしいわらいそうである後ろくりらいてもんは しちなっまいろうく等身る考り 一かいあれらいうらいてをはゆるへうかりだらりてものかで 一ろうちおしてないかりあるとありし後かりてなるっているち

干割が三二弟と後を成の多いあるとことはすりてんゆとを 後すてのならいりからいていかっかっきるかいとんかり とはけきいてのなからからかかれてるかしょてゆれる 入りもろどれつきれたほとを気 打のはまとりますとくまでとくろくのかりますってことのとく きょてあってく一日くうちてたくちょうりますりと かってきてもみているののしまれるもろうとれるない えのこはいしているなのはあませまいている さいっちょうかな からっしいかてきらっているんろうからしことうれん どかのはこれがあるともないいているとしていかり でいるとうかとまってある

一致何をふ な 務室教をなる 内裏をあり きるとうでをなくりくりゃりとのなるれ人るう堂と後でなとそうな ゆうちし 大ける ありかんのん していり 一いかぬなるできるなける場所のかかりつしてろうしょう の名れなりとくるとすれるれるこれをすることをいうこと なりのとてろうらうとうゆうかってもすみるを店松きる内で大 佐門はかけてからててくってもずってあくとてなくてのれの は你傷傷所はなくまとるとそろるてちてちようかてそ 見考覧事品まるかいはいろけるかからからまる いけまりるゆうしってかいるかっちゃかのからいすり これ必失豁のかまや りてるからすしたかではなくのいねしいなり

4

うてきとやく ころうてぬくろくずらういのてきてすけをかていちょうかろく うれてはされていけのからのかんの付えまるかけって いけるできた こ年まっては一部あることのゆるれとはある中かくたくてきてきない Strate Control すりの何きな いのさん 一日まるでくんなとか、ことはいさられけでじるるへんなわ おいなうるとかとうととかかっちょうしかないといろ うでいているさといりしまいて被はしないするなとう はなるからうとおなっているとないできょうのとう てうちどこるいろいろられかるていろうちあるる 板でらかしあとうとうてけるちょう しにはないちりをしているたれまにたんときい ~ あれて

一格を集をかないえのようでろろりってろんのしてのでといく かろうりなるはれるのはなむるるもれろうとそうをと はぞてはりりりとめえたのかるとてちろうてうちぬんきか ちまいろうらんにもうであったのわつかちっちってんね あるいろかいきめてもろう人のなんのでかれてるうけ むてこのこうかのかろういきかくておれかりまりうるたい うってえてるのられる動者とのおうをまかりというななとい んないんとうしりなきているっているってもってないるちのなっし しらうかちをのはえなる小大を集るなりのうのという しゃれんしからかいそうをいわらくとなる

一個の変ををするよれやっまっちけりひろうとうりますのろう んかとうのととのはこのへともすれいてきてところうと あろうめのくうかんのおいちろうとくころのいかとうへんかく あれいろいまかしまりれけかときつきは早からけいのくちころ ですしますめや てくうれずないはまするいくせんなわるとそりでいるいきとの さするなりひふからかりしてとしろくっえんなりわのろはんき 人ながえてもちょいねでえって同しひとひもかちらいる つきかけててかれているしけいからかっとうち うあのねるつるとうでからてまいまりはならんのんこうちろい

ひきゅしせしは車をてするでいかっるからてきるなるそれっ えることをではるとそうしむさやせいとのははんない きちのちょうしいとかくろものるといろけらくわらって くり面をしとえぞきるから、面中のをなくりあいろかのなのから コーノーそうとうちるのとととはるはいのる東モラ ういちんしょうりりんいとうなるではくろうからはましょくてつ わるちょうれるからういとかしったといるものがけら けつきいいいろういのわらてしてもしむとこなりただっか とそうちのうこれらいとうくうちょうあとうるがからそうちろうこ しきとうしてまるととかれてくろまの人いてきてなくゆるう

一をなわらりませるといけるとところうちのわかっている をとけんというできせてはられてるとってもかりしす いろかっとかくろうとならとなっちいろうはあるかってはれ かよくひへるとてきめえぞくせんかとのかしてはまむられる よろうしてているといとといしけるう くまかかしかっていゆかといいましまかりいてこまろうかいとせ ていてら車ちとときいのきいちゃくせく人後のつきていてきた まてかかしつといてるさんとえるからるのあるとはないか のも中州ちょかりるいちゃるったが何ともは東人後いひょう いとめていろれていらけられてるえで車とところかてあらって

こ 降大何をあるなる 強石をいたかすっちりまかからりなんとう すてきなちてのをおりなといいりですろううちゃくさんと からしたかららううちもまれるまるはかのはまりけらり かんのひろうできこしまとりのりあるとすいるして えいるな 前者かたるよるかかいしなとないをつくを给す をなりのならならかですせんろうよりけれるなりら ~りぬかりして ちょうちゃるのとれらしてれているとり ひろのうべききなの数まうすとうちょいくつちまののまる ると十一つうかいなろうひすしそうさてまりなり、苦からち らのなけもからきならではらてすのをよびらったいきら

一袋等るを長能行外の強無三日盡めるころうころうかとる いるころからいからいけるこれでんしている 考放者兵院便事よれ一個一多のろりををより ちゃき かりやハアルトで長能階後痛ば更開方死一生之中、要動者長独 ちくとよろうからからからかいましてかるえんあべらくら くろうちうこてのからかってくれるれる動な講時不大心をあい てくとせずを食するいろかのころとしめの年後打打ける ないうつとこくはこれがいちんどからからめいやまなな無ない きたうら山のあるかちとでとうともわらしとなるがあるかるる そうれいちてきからうるだところうたかところあていると

三月一日とうてきけるようからいんめいなかられどありているだろう からきとうのとうのかくろうちょうらいれていからずないろれのまるまま するときてそろろう

一海飛集を一相はの例は巻室とはうてもからちかいろうからえ いあり、つろうれがちりいるる気をなっているあり うちょうしろかもひつのなれらいりるあておいたいかり これであるとうるのれてあるるとのののあるでき 見考を他集る相はっていんあらてをからはころの人どして て蝉れられてのゆくろものれてあるをかっては 三のちつれていとろうををなれのかとうとうつうと思し

はってなってん 言のかつとかれたのうつしひとういくちのくきつしいまて又ちいいのを かってるうにあ そうりで、風秀を到处の記まちのうつのでところやりからりしるいちものであるとしているののでするでとなるといかりかりゃらっていれから なんれてついか ひらのかそうて くりちゅうかれ、あいいっとないのというしも思くてころして見せてとれてい 校るあげるもられ 一番はあるまともすけっかりしきでみってもすいいれてりとう 一座のはまなをもとうしかかなくしまてくきわりょうこ こころうれいうねるるかいちかいうであくれくであるべて文本の るいいいつさくならきのうからならをさらいゆってれ つるて人がいってのつめられるすいっとのえているんむこ つきしらどうかりてわしのかとくてくてくれどらせそう てこいそう 第名ろうかってるまいのゆーけるうれていのつきちゃくていい かつしめつしゃりょうながらるらいつくっちかいいってるいちかん 見るは野な師をそうけんいかとのと様くはってわられだろう うくらくのうちゃと まといちけいん うきいるよるかからょうどう てくかしておくまってはなられてくれるからいかららのけられていているかんないというからはいない人があるからないないできるからないできるからないできるからないからないからないからからないかくからないかくからない うられずのさしれなり もっているわてあてものる 知われるとのなけらうころなしちあるは気をなるとうなって いくろうかにす物なるもとのうとうなどとのいるにもいの がはいならられのできましてなれたころない そうろうやなはてからちらのこうりととうはしるうらからち あちいらかひちなでものいいあさるとところかりのなど うそうなうとくとくろろうからつきて

1

本のとまいれ人のいっちょうなるのかれん ら、見る仲文集もつきとめのられていまうとれているち いかくくれるをもっさねりのするさんなくすって

一八大の物でえのいますえのいあっけんころられのでつから 同様でというかのるのしょうろうけってするのをらいという られてもほとえていいなとくてものころいいいろとあるりまなま されむらとなかでくろうこっこれれないのおかかしありとかつる カケーしてりやとかりてこういめるろうをかといからるまちろとき いいつこのわるだけがいかいいているととないまていなりかる 一名笛音曲養養器於其上令作園者也散本集之伊的少分了 きなととあけて入しくりたり、我をおき養養を北を海清時ある そのくくろうか

一月四的云茶蟋蟀祭中一有了人分化的之夏考躬但去闻云

一枝みわかっていたったっちょうということのなるまってからにはいていていているとうちょうとかられなかっちょうというだけれていっちょうというというというというというというというというというというというという おくやしぬる状め冷なるの配王前を民宣台でくりらしなかい 云枝らというわからよなようときいかりあれいなるれやりないのの きょうかし枝衣とうちょうしまれら 見るをから得去か 内親王の宣をつうかちろわかのそうとろいよういれてるとれ いやしていりゃんつべれいきしかとこと調度か会判的なかはま りのからいないるけけのすんくらいつききまするのかと すりろしまきよりうな好馬神を集えるけのをちま 年を出るときて方をれたるものをたいしないかではられ

一六石造分合展十日首的餐食祭在后定むりようかちゃってめ かの集神がなかを中のならなっのにあくしからかなしちろう 女院とうよ内製王うろとりこれなないはこまり切らか たる人院としてりむと対すしるかいしたいかろう女文 てりかえていから川れたましるためかのからしくやみはなられ はより歌王家宣言、ゆかちていてふしつこのまくいせてよりせる林 中者 教教すといり宣言とかい前初展集ますしてていらきなうして 女子ですて女院とないろさの院としてやれていくかといく対る 老又枝衣わからのりとはおからし、福み門親子後年産院を女で

北きはます去雅春 いまりなるころとのはないというあをうっただつうしてらばりのとうなま みようなからに大佐二年二月な一年を以大を被えてるようところしまたの 「僕世建去のち」をまれれるの女院的りた一四天経行すが 初に十ちゃついつきのちの話のいちいてきれないといか くのべというりょうんくるいある。かんいつきのといけれ れよりくあっていかろうくらみつきつきのこれをないうの のういしていれるらの方ででなないなっちっしりとるないます ねおって選み自教王かやそろあとろこのみかりとつろ よしつきのまれるのとはよりとららる又を極になくせはなっ してやしてなりととめもころし、気をありるらい十数様をよって

かりまするともしてからりとるさんとうとからあれない いかしのろうなれりましりは勝のうないのうちのたと うたいいいれるとをかくらてしるうるとななまる朱雀流の いつうりょうかられてしまるよううりまつきないれていとこ かるすりごうらろうかのくろめいさのうらする中間まど かっててもありること 見考散本集る場りに内はころくく うかはううってひ、このくりょうちなくずへわかりしてつけれか とこのなるいて初えてからいいませたちのか のかしいたいてずちゅうめる中暑なるくたりはしりとうか 教院とうとかあるかしなといろよかしは「たらいうぬき」

せてれるといれていつうまするりとうのかしんっさいかはこのちの でこてらしわやかりも

一新士載離別から未在院の内は及系親とりのはますから る人のりしょきろうさくろとあいきものしとすりてひらとのでする 旦のソヤをあてのそのかるとてされるするるよなたなまるかやろう うれのいりられてなるらひててくるまちょうねのころろううちつるよ いくうられてい思いますとれてのあのからてきるろうちもち ろりちう見考数を集えてうりかしむのつついていいる らながりつちょといむんこないのちゅうろしてとも よなおようらるにのかくととものくちればなるくつういかとく後は

一思松かろうとくならってかともともらかくとといって 一下とうくとのまいわよいなーしいちゃんなったのからいでくろして ·東鐵日建保六年十月十九日将軍家任門大臣給同年三月首去一日 干時建保也年七月七日於住吉御前参範之次聊不註付也亡 の油切よすつへんにもへくととからてきり考此的真言日 りかけられまなねいかかつろうしもまのさろきろきること からことろうなあすしのからますくるとといるとえめららいからい をはいないとのうといくれかとすられてるのまといる。 むのうろよとこうころちゃらろうう気が神やかかのてつるまで かれるのとうろういらしてける日本題いるうかからいれの内

をままったりま おみなってると 時くまたす ないたからないれっちんなおわいろねい一人の外に定ないのるはのかに 室前のたけるところとろう天田内の水やしたれるいくられぞろれいなかましょうかなまから なかの大きずや みからないところうら 再底記。おれまいるまは初大桶けれに変めの製作 なんえかとうするのれの何もゆくくみかんとをかせてりゃるるや はる村田」と かな文書言ちしてからのま知らのはらしちあうして 門內被下院宣於 雅子为氏々の前 行治ちとなけて 小個人也沒 しれてきかわあり のないというとどろくあるねぞとろてはまちけありやお などうだと でおる きあればのかれ、ろうり但やらておのれか神と鬼をなり三年 今及故とわてれなまして去松わて二条がからとてみそうひ とによると一見とうかとないのきなのだよかりううのなっての風変 仲春すなりという意意露頭さいる号竹園やてれたなる他は 五年服月下旬記ことすって鎌倉府で書えて不審のう 料軍家会社方大臣で思かわる方丁了小一個外心學言述你 乃がかごいるちんと

伊長に年や作者追しる、北島准后教房に作ん よいうちゃしいり、京通言とおう梅は日村日頼てないるちょのまたは見できたできるというというないのまれる ちかんとってらいる のはわれた。これところうとなるというゆかとなるとしてある いつえなよいかいとのうりいろもいねとくいろくのあどうかとそま 一せもいうちゃしてもうかのればれなるつかくちとりだりつか いっくいっかとかるとうんとからいろしょういとうか しれらいさしありらし でのりしこのくりりわらそうきこ なしてのは肉とうしていいまっかいからられ しょういかしらしぬとうきるいかり

かいてあるきょかかからかりからうためっけしられるからるくい

一次のでするこちはてからのそんとれかりるつこととりん てぬけのろというころからいろうけっとのごろくううから しまくいけるとはらりましてきいっているとうからか らきなつよびらうくまうらきでしまなますいっせましておうといり ことよういしつりゆいと、自然うろの心はわなもころくくすない るやしけいあらてたりのなまとしのらのさらをうるかな いき大ゆるりなるの治え ようくくえらりょうちょうからない よすかちらるしとるんとい にのつとわくらからかくるうちらいさまるのからっきょうろん くろいうつきになくまいかけっと声りっしっていれるころなる

一日次了巻きかいうしくゆれててきられからりてきて ひらうこのあいひこうのあでろご信る果六店かり活きるよう うさいのねってからうひしゅうくならううるでするけるでる てもかかりのかかかかなといっていかしつまとないち きころとのやときろんろんはゆかりといいりょくきかかく こるがらのうともに自然らかわらを終巻きっし からさいきしありひらさるとくゆっていとあれてしゅき ちーでしてんなるんさらいいですのまるこれしまいのととなって 神中おくにちは深をないいいっとなど人はあくいいいろきなる ひにまつ

1

一者国集之が以院のはかから江川言清とってうしるな 見之源項集,進上原右葉之首帝草午年去月音明前、進上 万くなるさ 松葉之書蒲草千年五月出可前 詞言云五日はりかつるくる すろうあくろうくはらやかくさいといのされまいつうともくちんき そのはあかねとくうかいろうちくっえてとれていまって 人くとよかでけてきないなくるのとう人からりるいれ 」進上水鳴言浦千年人了る大におおこのはで人上すること く不用からら

一年がわれるようしの大かというなことしてものいろうさて近て

一伊勢物部院教養各立或林五原中將自首之同師自業世间 はるけてきましれのりからくそろでとし、天傷にかくからして られるなる。年午初にかしくろうともくるいはわっといますれの 生き大政大をいれてからですようにするこのりかとえてらか のいとなりしろうというとなっているからいいかると見るるなる なのめつなるとのはてどうえるころうりから いというしょうとうなっかっかいかんせよういるはらり えてくなっくからとれいゆうちゃんまはせてくりまかえてのりょう とうそての行いまたると女神殿を女王がひんだとるとも いわってろうと新古今を四春とうてととしぬうろうるかり

後のりょうという。 一でより、草るとか関をなううからはあの枝さら一みとうくてけ 物語掌平朝目所為了偏非彼人作歌耳古今之間哥有典之昼載 坂東之由行行中有,便旦乃成了改書,去乃次清凍农草紙回要 ねいつやてさいとくことにを食ても町の武勝さかなりなり 放不論自作,随便同人,歌旅看到之若是審受了会混之故故 あいちからるる日れというとからひし造伊努初治之時下向 紫やうかろうゆかいけるをもうとうきいけんさしこかれての からかからめているまするいりょうたちではへかからのける 流布了如身考之或日在原中将自言了更考袖中抄五伊势物語

一放京保昌班長

そうなうでいるかするとんだけくられあろけられるなですであったとで

いき打れてけてもつくなとしてくり行きの治よっていちられられいろう はらきへはのるけれがおはいるようち というつしに野く文を養ではていれますしてつるようこく つるよういうななりでときしせいろろくら見るける記まるるでけてる いるあるいてるてたとあしられるままるストきりれとえるよ やりこめ、かくてからりとなりりて川のちぬのところのとない つくてきまとりかというとろいる地様なるという ~のかり対土たり記れまりかろう人のあの他とろらる

一本はけっきるがなるいるとうようかるようといかいまとのる

れたのでしているというというとうこれでは何をないくいないがあるというのかがあるというのできないというのできないとのできないがあるというというというできないない。 あるなかかとうつついかれなのゆうし十番古風版は二枚がつれた 右膀竟然法親王 六百者か合むなるとなるなるないとうのもついろうなる もいとようにれのましてたいもいかでるわるにも 気が かりよいてしていまうできるはまたがはあるがくな は多くうきをのはあるともとよりなるにん のきのろ 内府画ならのまとろうし、できる文式へるお者小路支佐に とと行いちいろうものをはなるはのもながまうとしけかけない のはきかく秋の中は残をありないおをいるのあるともは

よったいいちつろくのなったらはのはりょくなく實文九年なけまたり 造師は親王家本首和教秋十尚八四於孫家有造師は伏之的名之 るむは我家をはっともとかれからりりのはしまな教は さいゆくちょうくのろの ていれよういうとや十載集秋下は皆るれ大政大阪自大日子の行門 新活月次四分部的政策自首教名分号人員立昔八分至と中人方的 や十首と蝶のわしれさるうしてくれてしかいとなる気はくる かなるなまであるるをなりこうれいるるうしきいていてきる

一切はいなをえばせまなられるかさっちといといくなれるいてかってょうに

くるゆーさ四笑とはれけいかいち

よってきるはいり

かってきてどろりてときと日本まれてはを見るな事奏 玄唇吻上音旬久知此留下音粉久知仇凌良与了了人人 あずくけらいはいっからせるいあくりさいまちろうて かいれかのと対三年のいいとうかもつるあるいれる うろとい辨古るというり 見方西の楽泉からまれいさ 紀成かる子古し京流型をおるは少女流し二体過和松かるでけ けっさうい室ゆやすべしたのまはんゆしいかからええ りからつきま数があるですいちのられてみたころかんないい さいるれいつかんとさることなるののつねっとうしてもませ 今れからうるりれれるある。ラーというかしていいてけるなる

一八きらかるただろさってしょてもよりあてもようりとれて難なた 又奏えぞうりまてまっていんからくればらてもいかへし うないつけてせいてんぬかんろとはするこれからぬっ までおるとうないけんとうろいぬけんくいうなとしたさ おナセいきのみらうつるとよりととう風君女かられままさ というてあいうこうと異的核三年軍冷をあええるコかりたり 明海がけってやいってうりもんすしもないちょうころしろう のいする時後い者はというくいってりもるなるけっている しててえたとうところらよりとと静かは奉のしくちろうし くくり、ナサキララトキテコタエントスルラ将軍セインテモノインセス

一つけめらり生をるないからいちゃくいっしょうには、気を ・夫本集後はころうころしいのみたのからつてしいのもは他 のりとすけるいわられてらるかとうないますいれいいころ る状集をふるなかとうらうの別はナリナムところれてなって しつたくいうきをいけているくうろうんなまるころうというと 人のおろうかりかくとにははならよりろうる後とほ物とか きというする月をあるちちからばすけてきりははいけん えいつとなるかなませてがおいろうさつていさいからそうつるあとしかの いいいかうろういなるようつるそんとといいままは来後が してうりのれり信実に水のあいなってもかりとうとうころくし

一天水からゆらはいまくすけいまれないしたてはて人用くと こいてきれかりのこえるまての田とはられるようにかりとはきつう ころしるくしていてるいなままかわめるところととうり にそれとに聞きなるようとうなんともちの見る常夏とんつちょうち 古かいになのがよと思めいればするますかしといれまする声 はかいちこれを信じらしてと見るちずまむかるし そうかとないくないていくしたちりてぬらすいよ てとりくらとううしたるととのはよる るすとなるしたななはは 集三里のおもいちれるろう るつききしろういりをないまないるろうのあのをないとうない。

へる四かなのあからすしらゆしまりこのくろうころなからなど 生方にのえてこれらりいうなするとしくうな様とのななるとよめる かこといかのもよいらけてこのはとうからうというかいちのとうという すしらとりか中のない、統語といすしこといろとれるなのとといれ 四条大館言入別就搭数物はなえよる看力這他年最ゆりと面き こうけいていきうのちのかろうしろうんをある横呼は強う歌 そいしらははころいととらってはますしいたしましたた ちしのころをいてらる情風をある物美名なはつらる類は はるていいしらいはしらないそとをあるけいろうりやち うちゃとけれるはいというかちのかしることすらぬそらし

一六百者分食や十三者があれれかなろろれどらあるとれれ き限のりて見考はめに客を財力をなうらみせますて指 とまれれれずしまゆってるうやはまかっちりかっちつわっ してるかりかけりきるちゃるとはあずつうるがれたる人 いいても、あけのセートとかなかしろうときろいるとといれ あてくろしてしまだれでいらりしゃわりる人は気はささったも ずいみなのくに客のをはくえんりょうてはめとうからっと の名れれ行るれているとは古老をあるといれる子れたが人 年中京参居はあくまなしおのから

分支も生していりちての回名のりがい込むした大水がい水が

一一本載雑話云定家や上戸してなりりの意味を記れる記る うかいろうくのかりかけまし、武橋野かるのまりなるとます るるのでと連ら対合とおわる草原、古城で分へしられる を信けらりもするないまいえかいろけい成れるほう すっこるまる会にはぬいなる知りしゃうなんと年 それる母きよりるいしたりまりまといるないなるまた ちからりれ いくうけにろいるかいとは見いいまるよろさんてしてあるとうかす くろはてなりはいしまれるようなではこというしたきのか てかけりといくでするってもいろして枝らの中やないと

そらもは接のちょうとうろう ゆうしょうしょうてきることからめときしとをかるごれるままと 心まっりてきようはころらてみなれてとうのまけ 一声もうしたい文明までのかりよるのにいいる回忆いようしの 凌て 送権れてきるうとこされてんけるおはれいようちのから へそうさられられのだい菜景樓のちるのとすることかっ うるりろうことうないのうを好のかっきいろうなりけら よんるといて他のする水からうしましくるとうろどから 定部と母に個の事有りき一気とる大田遠産の年本代的公

一幕景集之勝九胡后經点不成功以小思校の你一刻了信念

からの付る こくろうなくいいとうあいかれけしのとゆくのでいろうとう かっていいつりのとないからからなるなてきれんる うかくせころうしきものるいまえてくれであるのとりいとういか 多女を教訓のは名よろろうらいけてことの女をでているか あーと話へのいくろくていせいのしてもべられないれている いちきまてつりまてとりとかしまてのあるるようはなりはなり すちけてけるろうごりいるいしっていてないれて

一思河受注意思的云古年的新後城のゆころかりかりる南京 されてけるのかであずるのちれらりるこれをあのけかと

まってらりし、後ろの風まするべろきなあるちっとつらんで 京東門とは多本のまならとき一詞はまかかるとくのだ 後醍醐院的風景之後被正被難論就了我中人去四份日古来凡亦 **加及谷黄门为相以尺所自案之方未凡称。於其方亦於被備** 方外的流光的之外と動意中かれぞうしる去を属する。 後めからすいていろういのはとうなるないるほか 萬いな集ごなべていれるとりはつうときれ又下今年が多まかり するが聖武でとればようんなると大にとり人物と奉て 候えずらととろれから人れ懐まるののと記して其後 後越位され可被信用之則考凡於抄以後成に七年十四八万

立明ないられると文本天をとけりなれるおらせるな ひとうしてりや家がついちでなのかとうしろははというちしと れるというとうかんではつかれいろごとをごてをま

一竞惠古今集傳言云侍從中的言為明師延文五年十月七百二余 親王例东将軍ノ特我身で請してして方かとは有し初め一人。 けいる程候出行了公成的就京的為新等するかと清~~ 奏後ははって不断るよのなかくいてけんやう為世に傳き先年外の 前関白。古今傳受了時去基後である此判、云室の外は煙のりと 到するとく 烟の色からかいるまのかとこといいるりしまるという

というできのような経住を終了 子り、付きなかしのたくくうたけりからかくかんあうたると生き の格よかとおとう今人ないか集る相集ら為大年三路往六分 いけで多らえーとすしらしって別的人と指するうとある。 六雑部題煙ずけらゆくいといいくときしからけつのきを ち渡王和放集雑分上後格ぐくれつのちゃういまくりのごう 後へ不知できてつのぬもそういろうあるはのうけるりもそう お人なー不断のしと若りると、風考新な集を一切らん に入道爲家在个相傳之门方一大有り雅有卿传城丹後入道道知 る立とればせしひ不断のかとゆとった流者とうはよ不断之故なが

~~~~~

あきる水を流行すりしますることをころりかか

ててるべー下書 の心と不らようりてからかしょうこのもっととあれらっしてし 冷泉ない不多二年ないる街とはつりているれいる新 は安生は変ないからいのがらないでからはれのこ りろてとかぞうな心にいってちかんとうのからく

一方石は下子路の流動 るのでははするゆくたいからんとう 吉田東邦 百年分かる伊弥如治と人常して一代とよめとあれない。 了と不のいる不知していらくしょうあるり、世界にいている すっていっというかんくかれいけられてきまするでれ てしているくうは気に降くのしいもおうのまえなり

一長松油草分れたりかられたこうころとくてはからから らないないをすれる古のをからうちろかにろやいろ 二八八八八ととりの又いるいまてのからとうもないかってんとうろう たっけっとときしけのよめくけれるなんなのころろろい まれよのくると見たろけのでもなったとうなっていと うれがとうけてきて放えればとけているやけれている あろうの一切っとけているのでとけるかいらろうからあ 人のかり、不ちろうしまはいとかってればということの発 るかなしまっといけれるのでいているるかまれまし、 するななうろうする。

一方後才二利的な巻を変あるとなしめいてあるしかく ことろくこんいらありかんとことよえらりを新和院集雑年 文もひいりりはようるまんいてきにあいるからから 内大はようらてしれ大やりの内でくれてするらゆうていう いめやもいれいていろしかとうてものられるいききてりかるる で ううさころかしいれとのとうくうろうしく たけくをやさしくする くりての水は数うかれたのかありるもかし ころられょうういてなしきよといてくるもいらいしてんやろ きょいたのめましたりとしるかったっけっておるない するいこてをあるかしたのだりとうなるっているか

一真名伊勢物語云昔男 異頭而平城京、 見考體源状意整亦 所作立中男天皇御元服,後宴音必奏此曲:是頭の低名とる比 用无服曲表頭樂新樂中曲又作裸頭樂此曲李德祐作之又云明帝 いてめやていいろとあいわとうんせろうとしまるわけんこうらいある でますがはら、かれるのわとうとうからろくるんころくそ人よ ひとう思いとうくけっとが深会たたんごいっとはいかとうせる。 そうつるとのうといろろとりかくろうろういいてしかてたた ひいりしのとれなれて胡りていてころのとけりけとうちょう ようううわってかってもありつしろうのとる美きかられいけてらいる とうろうかられらりから金福から集文明系教が刻大上去で

といめてならりきりかんいかかいいかりくろうの 塔供養 むこうてもなしころめしくちれるこれんとてい何の表頭と かっくなけいろのといりこまべもろうべいかとろろは 延嗣動作すろうからしちもと南の最頭にやしのうねろこともの 是藏制七色一十三階之程器七日建武初位大名立東了之人僧徒多姿 と一条と三条のゆうちというかしあとりをろらこして福里寺 る果我頭とちるいりばなりとからしての内はる明徳元半等時に放成出たねる ふりとうととうとうなおるなんにいるとうわかりつうくより叙書 つっとりなんういれてこういろられているとこのなかなよういろ りつうていてしょうらいかりゅうとかくへしとまる考を記れて手

一はらくるる見どかは人の数すくかろといろうてしてとこり りっといういるうちまくっといってとなしようとすとれる してすつくして女情がたけのからみのじょうろいいうろうと はいろむろな一不らからかかいういりまちろんとものけるの いきぬい者自考後例の集三はつまつらかるできるといくかい うしらうちょうからいしのすうせあいてきいろうついろうちゃ いしてとものいけずりているとのしてかかしくえるろうどろろいつわ えんしらもるしむ集をはぬのかそのはるちゃりいのの いけろうりれいをきずすりはまずれをもるとくしくらって

・古今著闻集る天神え年のをは院古漢をいえないらっちてはつ 見渡しり御勝負也トムケンハト多中京ル治をつかい事相与無形 なっていましのあるべいよういらうかいめてはたのなりますし かいかしていらいめいとちだすからのる巻きはいまで おいりたりずせいとうならいらないいいとうかのとうとうない かりう若少以是八人道殿福原御下向、御留守二君建會合り 八馬車数モ知ス集タリ蔵人何了ヤラント思ラ尋问がい案内者よ そろよくときてといればのてるうとういいっととてかわかるもろ へきょうかくりとするよれしもいらいのかくろうとれいいかくすいていい くの見からいられる原子盛裏記る五月本四八條八推於見 ŧ

見してまれるからた中間とわりり見食のところなうことう をしけい見といつらてならっても見なというとかをするとうであ まいりなるとうかるはくりているしきからとすべくとくろらいと へのいろのなうととかいらいてあるとのかけとえるりならえなるこ 小見とむきてひろかこりりけかの次となり、からすら見るというの ちんとさいあるいろろくかろてだしてぬぎむろうしょ ひこうしゅいうつねつこももとけるったいもろしまる てらんご見かかいてするねんつうるとぞうのるとりと思いいまって くちくろてうなるいろろうひこうしのう

一条のはなをきらのことれちあまごろいうかめてきるようろ 撰拾遺抄諸家集等盡以見了ここれ名於恨云了你的立卷一說。 つってるとうへかるとうてかくいってもてうちかのたけますくうと せらうらもろとうのこうとくろうのうどういろうてるなななとん ありかけいりころくのうろうろは武大をの行後に見る公司の後世 日ン中不見他ろうう祝定ろねるくいなくているかのであられてえ 尊聖徳大子御世代定三十字以降古萬葉集新萬葉集古今後 情如的言。在八古万次是古今後機也行了你順集云天馬入年 方るいなはっていての人はするかのるなはのともて上古のまるれい おうらしのこれまではいりしりてした、私調からのはてのうとろうれ 百万次集をというそうところいまでよらいわっとるといれ らいりあるとうといめてしておかるなではる方が集まていた 化質之根之一就到来要人的之風を不知被有名の九條成件提出本 新撰万尔集系管家万尔集等之成次了新被樂还至北京重鳥 たるなまごりかとうころっといろうちを同年まち方なな中 宣旨あっくてりてすとうえしかではをすとれて ナイン人称古の出集你順集からなられの中してうりる るけいは満ちなりよめらめのかにせの中とかくてもとうんといること とうてうしらしてきてしのろうするできるとは個ないろうかろけない ころくれれけらうころこのうちこうからうえーラマ

すからうちれいろうしてきまれらるかのろとないまのですしていいたけるか ううからんあとようくちりよりなられのいうととろるへかとこもちょうこと 亮重家別になかな"俊成にす」なるを、頭底とによりは到すり とりからうのあるいろかん ~~ 幻のうりょうらら文集古あいなまるといってっとうらくせることうか たのうとないうとしくろんろうまいうかっていきいある年中自

一角のまってをあるくくているこれとくられらいなるへらか ろいとのかんどいろかとうともろう まれていてきまうちのめのなくのくっちゃくていていまけれていて りところいてみていれなかゆってうらつるうりやりまかるな保事を発

一新支人实於於應之本入追於国人政大的中候了不何水久吃了中日。 およりなはるいとれてくろしくいっていかいまきていられいちらて とすしいけるまりもりしてつくうろういりれるのと 新古かるりし東野州のなけるたばかいかいけいからてをない 和分的者女一人自古三人法原中京胡后海师先去亡传遍乃分 かってかなえる土りからのとりてはなってあるをあるという ころいいいくするちの山の白るとけるとは幻まれるけんけ 何の水んにとしてととくてよりませいるいろうとくまいろうではち と人てよりからような友本は個別をなれてろうちのだちこと いんしてくろうなろのうろうく 見たらゆまえれんなるのではって

一角的を写をまたうりはないろうからうとやとりてして真然新古 子里集風月部"不侵不吃酸らりてりもといううちてなるの 為夏衣 該的不語送一知之後的四次奏你一教七十八八 よ何ろうのとうさいの里分し今載于此功語成へな会判内はえ るてからましく見入るてりもとするりりもくてなるのとなかろりた 南路及到门"在农工公真以詩溪秋大口千里水以沿属粮了事 よのかかろうれてとりていりっちいか里は小子なるを飲食するる 大いるとてられてあるりってている行の的はなまっていっとうさ 今る上文集ななるなんかの不時限とけとくるととりからる かりかめかいる教を東はいってはちからほどららちゃか のなりきてうれいちにもるちろしこの到業かられよいいともも なうとうくくなってなくかつろうらの移りりてとこりんいくせけいこうれ る張みではして何火によかとはちしましてらえのませ の分はからのちょんなれれなんろうちょうて ころうくるかくらて、水上さかれてきてるりんかとうらいのことは で自己節例のは我一一次まてかれる」かと林里生

取のとす。分と夏のひょくていことのかい居中のわてろう二月の をありまつうなろうのてからしょういいとうろうとはい 私のうらうしたなきちでとろつあく集成するりのきょのは 次日ころうしきしょうていさまれてらるをあつりててているの

とりょうくきて にゅうき みていとえないとうるはなのとううてるのかられてかなとは かる不明不明的く月的暖的寒慢でれて中からけかりよ は何とはのころいかまして人様とりとくていてのまち れの裏のきょのんのうといわりろうなといっきくいと放きと

一後成で九十多記郷家長るたろねのうようをとわしまてらしかり かってけるうれきたろうこうけらけてをはず なかか ちいるりいまけのへうとかりまりれるとうしけいろう ゆくもういけるようしてもかられるのなのちょうからかくなか してうちまからいなのかいせろう何くしろたまつりなのろうなので

ちってやからとこしょうしてものうらてうよかかいしっしょうけ をするからこうけてきてけるうんとうりしらなくりったくの かしとせれちっつくちっとうきそめてかけくますうととを思いける のかかせてくりてとうとすいしせようしなうしてけたちとられ こて帰え入れのひゃらえ内でしのもろいめるとてはちいしてえん 見方左まらまかなる建たる年のらておりにけるないくろ のかしょうきのかしてぬいるのしなってとのなるとれて るとうへいいろうなるといとうとしてけられのなまからいろんのいるしとやし しりなんいらうとうりのは後のますと のけいちょうごうし 日かんなまとは八道とうちのかけょうてきせからしました

きいろの日八建仁と年七月米ニョかると うせつりのかれいるようにいるかなれまるようなんないようてき アて文はことだらかってやってないかしてないすってか られかかりして男性智俊の分析なきず七をおろう河東 らいてていていてのとかれていかしときかんかくかのめか ましてきょしかかちょうてのうころの中的を車とてられてまい とととなってからんとてあるからのないちろて二ほうくうし

一方いなますとういいろくるなったのとのないといってきるの 新在今集雜上朱智本年九月代伊的五八何治官よき手向去の たの人幸干化年國八治を子神化次式云山上に憶良いと見る 1

かりしょうかとかけからのるのままちょうしはしまいない はより必なるの飲とりていかるの草なと生を同日根すて年の 生かける向るあしてよるなとしてあれるのやしかりかえま 明みのあいてくまってるなやしならめるくなるのかってるときない するううなっとうけれのますってとるれるいろうとうなる えていちなか集めんのころされと回るころり見世のほけきつっころ 来養物川治をも飲のいという何まいなのないからしろうとなる 幸神中から一条海南のはないとのまいやしるのというへんなり なるむらのみゆきろういてんりかられてものきらるの詞林 るのちょううつむしくるかとう建学をおかんない

一方今集器核的去在院ろうかかりましょうなけいか 東野州南書きた年は下すいりのまいれのろくとは国野の打なり 汁のすべくる旅集雑上云はとりしのめいとりかんでする你外 タからさきいろういいかっしとうちんいとのやまりとらのあしき やくてんれてむにと見まはりを防いすしは天外からかん アイとのようてとないはくのかしきろうなななるをきれ 行生からうかやくくんり方をは集集在院のとうかつしけつ あしきればなくちなはないるからうのかもきろうよ よかいころうけれたいかいいろうしょうけいとからから 七条院大明をくずけるいのなかるのまりようけるのはちゃい 上か文なの外河をかとるのかかれるあるしゃけるようとか 新初洪龍中後京花将成家百至少まる一年とよろりないない すりとうと考えていいはなることのあいれのねなるようとしるない のほよれらいっと風事のればんしろいれのちょうけんともゆや のおいけるのまれの枝まううととまるターしまれたえる はいればいばなってのとのまいくようそのよう年のなけん見らか とあるうろのど子我のちょうちょりの個のな事格投資ごうえし

ほといれまれのけしてりからかいてはいろかつろうほのかいけい れたろうななるとこをかけいのいろうりまかりるる

官衙入河内留山幸片野入至大和 性神東度士事物したではなとかりはしてうちゃくなかってしょうてきといかと 侵克市衛 罪入京 震衛素 雜城田七月百端 ·亭子院太の的 あるのはのきるもろう三に町できりあったしかいれときい はなるためでうしまかりはしるはますのてきるでき 状らるする人ろところののはれらたいまけりやするとを表明を いしころくろうにはまるつまれるるはいからかっちょう のかれているがようさくしかかっというといかはいのそろうときちつ はからまなるないだる目れえますりする太上大とろうちゃか していていないましてくわといりの下夕後では後渡 水りのゆまろうてどういちのちょうちゃかくてくるのかと 日生の新花がはとうれかいかないらん かろいいろしてあれたる

四次とり内ませどれるとう かろういれいれ れしかくに もにろりいとと徐うさ すまさあるいち るのちるほう からういれてなれなきるだとのの内でしようしているのととはは 一千短お難方が云赤人たべちら佐後はのぞられのころへろろ 幸を挙むるとうるとなられたろ りかいうれかいつうらいうくれんけるのはとめんく年れりまをはど めしくちいれてすいもろどはちのこかりていりゆうてつきょうり てぼとえららかっころういすれてうにいかいるちいいる あこと大きのたりちあいううりをいいからすりちょうれていくは てろおんであるわってるのいいとはしてねして大く りもろるよけらりの一年な大にからのけれのこめこかられて は成ちいりまいてすててに産ましくうけていれと

维招下衛東蒙免許婦洛畢中書四人出社頭之後起居祭 三年田六月廿九日日古林宣祝部成茂今度依有,叛逆與同之疑 笑を一次代のとと忘れなかったらときにしい東強美人 りてかしらくううりりろもあいてしょてかったからりろれてようろ ななのなやあけらむくてまっつことうなれとがやまりること ほのこれれれた込み成となることもうようしろれていい 思いかっていってないのうともうれてりかかななとくのこんさいって きろとようかけというなとりありて岩風方。係後限長れれる れいのなかとかけるとえらのうとはのうかもとれいこうれると しているけるけいろうのにろのにしの寂中故れて羽

可進發之由相觸成於官下知重之上於送該物等也作者部類 三、殊養聚而須被完成茂罪過我神尚事一可能神事且今夜中 怒之氣覺之後心神爲一個然摘要則以方房示合大官令禪門 想被可來干座院被付鉄鎮也取室家髮纏左右去太有念 神七旅子原本路少十下著干開東之翌日入夜右京北室夢 緒一朝春養が食利向や社方、煎、首歌スステス塵ことに影いる。

一年成文がきまりかねりしてちゃかられいいるいると

四位部之祝部成茂日吉林里大藏大肺元仲男心

老よれ上天とろかりきむくのでしるでするでいるの

しいっているからからろうと 見たるをからす一月なる

するでいかかかろうしかしるらのあってかりまたっと

一いまれたわるす曲えてているようとうせの中にいていまくくりさてくい さるりしと思い後は気味かけいれていいっちいちるは いろうからればられなるとはできませていれる数し えいってあまろれ、世中しあることとくうこうないか 集を傷めさいりみろうくしなりれくううきろうといけいい なさい教与小世中しょうういけておんとてんとく真考松き おはられれれたという人世中とあるとうというくろううかん ちらりまとろうかられてゆてあるの女だ人小大進去としていると A.

一後など集難込むとうんろく又の年はからといてはらくいら 1と一月日とくてきょう 風港はかる法本大路行 きてきる大切の道網羽にあらくちととかでせているとのとう いるうこうでいいのもけいわてるりきないいことてはきる 今いかいるからろうなれいからるしろうとかんろうちゃんへのはいく 三年院女局人たりしくらくるりまとれたの大心不同なられ かきんけかずは、うとろくからしろとうごろい すいいないのあとうしからなりかせ中よういいあまく あくわさい数ろいせゆにないまそいったすし又新女子を傷をいる からなるとろてつかりるがなっととしめいていくといるときと

一時長切られるみまるいった大阪としはべいるろう はないかところれどりの人かしいかろうととまれからいっ おねしてとものから大りし水のつうとるととなってもとるこれ のいくよかはうるにいろるの水とかられ刻して煙とろれと いかかろういのと類られてのるさんというのとおけると 自力が中かるではくいをすのとろううへいかのか これかいのうそうないかいかりしといわりままって を住入後につかのもとっているあっれてかっのすること うけどかりつうんととかりているうしの大わというれる すてよいまないくつららいとうはてきろんなんときょう よりいちのしかいときころのをなしてえばしたのく かしのちょうととうけてならさの入びあるしの大わしついてへ ちょうであかりいろうかいいろきろいいっちん いいしいはとううする つるとなりへいとくることからてなる人いたとくならせてとのぞ いうらうしてもかどてるりきとめにしくるともありまと てもなくの人はようらっとうちゃいとてひさんのとのとう くていれいのつきくかるにいくといるとれとくといろいてき 但一かに大伐ををはあくりとことすべし、精を目記るきゃかと · あしすらにいくろううかとしてからよるとあったりょうろうく A STATE OF THE STA

は下座飲合者は限全員いえりかついるけらればなる うられてかることかのたかりるま不集六郎女元年分を言 できるなが像下た大きなるそがかりましていきていまれ かろうとる古のようしからいけるいけるいのまさいのましてい からさ一次届本のいいるかとす後成が見れるほとれて 大いひうずとけてりつととうしいるとてことのようしい場合を表 というかたともろといりつきちとヤーからいとしるのなるろうい とやしとけて廣言とや やしかとうしのちろうなといかいるいのかるるるへを又なるいさこ しからしのいちいさことろとのうちのることをあいといれてと ものうれかろさいかいちろうと

一新古今雜分上圓點院住了多人凌冥才朋長馬会學也沒一份多成 はないまっからいらして まるながに上年 るというできないというして まるながに上年 るとく 光きこうていまると次のはそのところくりるし 気だ らすしたうということころ又名古のならならくなし様も る士のでもたけっていることがいうれどうこれらかってよりなかつ らんつののほけかり者によからる国土にはいろろとしたない にそれないのこれとる古とはは水かよりり いはいるとうとういとこと内集正治二年下を二年院養人がる 文を集えかでいる院やくで疾れのうしろよこすは今ゆろう かかりてらゆめると九重まうちるろうしいろ 国際に飲 よいかこのれとなれのようるでいっていかれいまず相になるう

いてとからえる それからしなままな羽にべてからしたりからぬらなかてれまれさんだい 国歌居任後実てプラう 山吹かれるなの 古教兵馬食以巴內 きちかろってはころめってもしろりろから次のとにこうなくをようされている意味 なりとといきろくりれし後回な味雑中三金融院のみしているか まちらうかけらりかすいさられてりとうしろくろとくのセスちゃくとくえ こえずかられいる人の大くれ、大きにあってからしるのだけ しないりなら次のころのころくさうあんしとうこ

一と知れ集蔵味をふくってはいのはってきくのりと 女乳かいといっちらまれのつまいうるれいかけてよんによいき いかとのないかとかろういろいれいえくてすついというようと

一班集次八五

一千載集雜上云右大将第長春日のかの上で小五ろりるちかないる めろじてはしてお同しいかるれではある目のするなれて らん見考頭昭は作ち今またかるこのでいまるこのあける。 万大人人の中間と中心新長春日の上却小うらるいしょ前 馬助 らるは後まはよけりふきてかわむませくのとうかくて 不りすといかっ するれいのなりいせんとのお同じくろうずいくするとを終るの えられい又のそのうはからりとからしとものうちままがしてのか はるのなまでくているてきさますといかつこのみない 一きからすりはるん人のかってからちいぬ真考な物集る

一たいむ腹まするれてしのますけっちゅるくらうかまい 受けれま 稚上され大い素長る日かの上でしてくろろう に年できのいるないとはれれらむしょうにんろいいしま するアクトろうやららいなるりなしは知とかり日かんういり とり小板かれにといくかりしうたりてくたのかすられかられなく うらてないうかないとくうかりらうでとめるとろうまを集めく 見考散本集を必けか羽書と展れの珍まる山里と人とか すんいゆうてん人致いによる あのろこまいしかい けからなならぬとろうじゅくろうちゃ ようなうんはかってううちてんなしるをなけまう 紀路ってははよりずようなとうかろうかりろくころれ なてていというなまえが後ょうかえしをなりち きせくらもろめくあうやしょうべんれんなんにんちょくしんとう んのかっとなりをれなせのするよれたりますいてすかりり とりかんべくらくよれどかぞくするめるいろやるちあり るりれぬ神中がる中間なないがまたのなりはなくてるいし いたたまれての日になってきのかりとうからしればりん ようしちあしまりかんしきなられれかんいのかとなら 紀後二方子にはどいりしきいとのかたかきぬからまか すっているしょうくしいろのとれるうていにほうと

tro,

一神かられてかいそらすかいかでわりまてかるとごすかり とようなうつきいろいるなかできるもってなけれていい 和東京なるありからちゃうんなられ ていてるの気を敬るなるによったようといかときられ きる仲実別にすりさいうろのみかもそくなんたちつないちい うめになってとうかきつどうていていていてとくしくうるかかる りらとかいかららのからしか日本書は巻牙士五百済、俗子は馬、日祖 らとかりつろいめえは除からいいろしあるとろしてをか すってしたっとれのかんとのうらかときしせれてならにてる ろうろろろくいるるらろいて同様を水集い付いてあり

うなのだるようといれるなでいかけがかしままなとあっ 好にはすてきた中角をかけていろくとうとうしてしますの 本とわなら文されくのうちつにはちょうしらいろうるなないとうとうというときを集まゆりとい対教とするないかいかられるう ういありむ中にすっていたるはまたおいからんどうのゆ てがれたうろうなどかいわのまと角なろしとうなちょう といい人お人ろうとことをはあますりいれらりかあるとれどり 云れ人のあられいけるとからままるとどわるといわられ いあのなるとわりるてろそられが多つとというしま木集 していいないはますろうとしていますしているともろう打

めていているのできるというよううか 一回物るまろれいそうろから他のかとまたかとくいうなできょう 風なりかるそうちといはいってかかいつうきてととするると そかっというとうないているにはまれまるなまろと様は い秋りかられてあるろしくるいの様の住で、そろもろとなど けらのらますずれるまるとういもいかかろうしくのか き麻蜂のてくうていろうるかいちかいるななのぞりて てい状のあれるなんあっしいちこん和飲清液とりできのよいち そのからかて出る唐よかからねこうとうらうくすらいけかいろう るかはまいまったいまかっていのはるかくいっちにはるよう からのじてもからはいけてうちいのかれるうとうとう とというしてあっていてる数本集成でてる上本というのでよ うるりおはすい蜂と次うととして異な類形方ののほう 幸かることとううすましかたるようととさくからり!! ~ 所たみ見られる表がようとはですしくというとなく かく秋の転来明らて流の人にいとってんいからといきるか 頭的と歌れ成野ときりとたらかれてりくちゃというんとのあとい めて、秋られいとめらられるはなりるとなのろいるようりのではなから いまるいうれつきかられのくけれるというちますしてか くさやるかからいろうからの砂はさはなりとよう但在今分まかん 1月一下や打ちた

3

一けらくまる一枚のかといないれるうかかしまされとして湯は れのるるならいるはとはいるけか又接込むなる方名を走 てもりわりかののこくゆけっちしょうらうしてのとえ も国えらしくとい唯無とりいてもりといな 神とりでういらいれ とうくつうなれるようう寝をうろつのなるれたの 以麻為正没人蔵ますと麻のよく、て但男本とりかりて好恒 そいとはなるかちょうとからまるて又なととからしいしとと 何言とうできかってくっての小れるあるまろうからようかっ うこ白河流小青山腹からちろ不要自然三条中山馬云 と、旅からかこといお用しからと多り

「国書を限几下京は辛奶なかるのか、子目するい民心」」ある 古事該云昔為公弘御祈行八詩九三退九下来,卒都安 トコリ書タレト谷ケリ るな帰 敬之故です 一銘イカ、書タルト問タリケン八金輪聖王天長地人御顧田滿

禁七八州 口石花庵尔国箱 らい文化七年の

